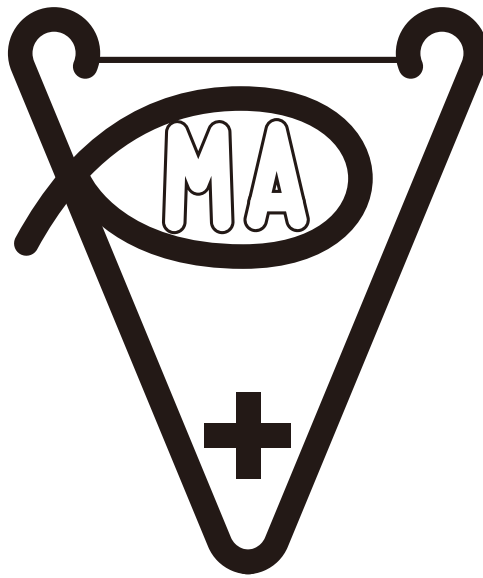


令和6年度
SYLLABUS



秋田市医師会立秋田看護学校

高い能力を持った看護師

地域社会における
保健・医療・福祉に貢献できる

生命と人格を尊重する
思いやり

豊かな感性と知性



校章の起源

外形のデザインは日医の会員証に準拠するとともに秋田のAを図案化しその中央に Medical Association のイニシャルを示し下辺に看護のシンボルを表したものである。

なおこの校章は昭和39年の制定である。

目 次

教育理念	1
講師名簿	11
基礎分野		
情報リテラシー	13
生物学	14
論理学	15
教育学	16
英語	17
人間関係論	18
文学	19
心理学	20
カウンセリング	21
社会学	22
倫理学	23
スポーツ科学	24
家族関係論	25
看護におけるホスピタリティ	26
専門基礎分野		
からだの仕組みと働き I・II・III	27
形態機能学	30
生化学	31
栄養学	32
微生物学	33
病態学総論	34
呼吸器の病態論	35
循環器の病態論	36
消化器の病態論	37
腎・泌尿器の病態論	38
内分泌・代謝・造血の病態論	39
脳神経の病態論	40
運動器の病態論	41
生殖器の病態論	42
小児の病態論	43
精神の病態論	44
薬理学	45
健康科学	46
公衆衛生学	47
社会福祉	48
チーム医療論	49
関係法規 I	50
関係法規 II	51
専門分野		
看護学概論	53
看護倫理	54

目 次

看護研究概説	55
フィジカルアセスメント	56
基本的技術 I・II	57
看護過程	59
日常生活の援助技術 I・II	60
診療の補助技術 I・II	62
秋田を知る	64
暮らしの理解	65
地域・在宅看護概論	66
暮らしと環境	67
健康と暮らしを支える技術	68
健康と暮らしを支える看護	69
成人・老年期の生命の危機にある人の看護	70
成人・老年期の生を支え再構築する看護	71
社会の中の成人看護	72
がんとともに生きる成人看護	73
生きているための成人看護	74
生きていくための成人看護	75
成人看護技術	76
高齢者を支えるための看護	77
健康障害をもつ高齢者の回復を促す看護	78
高齢者のより健康な生活を支援する看護	79
社会の中でともに育つ子ども	80
健康障害をもつ子どもとその家族	81
子どもの病気と看護	82
子どものケア	83
母性看護学概論	84
周産期ケア論	85
母性看護技術	86
周産期の健康逸脱と看護	87
精神看護学概論	88
精神看護技術	89
精神の健康障害と看護	90
精神障害者の日常生活援助	91
国際看護	92
災害看護	93
看護マネジメントと医療安全	94
看護の統合	96

臨地実習

基礎看護学実習	97
地域・在宅看護論実習	98
成人・老年期の周手術期実習	99
成人看護学実習	100
老年看護学実習	101
小児看護学実習	102
母性看護学実習	103
精神看護学実習	104
看護の統合と実践	105

教育理念

豊かな感性と知性を有し、生命と人格を尊重する思いやりに満ち、秋田県のみならず広い社会の保健・医療・福祉に貢献できる高い能力と行動力のある人を育成することを目指す。

教育目的

豊かな人間性と医療人としての精神を育成し、科学的に判断する能力を養い、看護師としての専門知識と技術を修得させ、専門職業人として地域社会の保健・医療・福祉に貢献できる看護師を育成する。

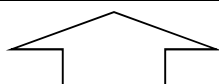
教育目標

- 1 生命を尊重し、人格を思いやることのできる豊かな人間性を身につけることができる。
- 2 生命の安全を保障するために必要な専門知識・技術・態度を基盤に看護を実践することができる。
- 3 地域社会に関心を持ち、すべての保健・医療・福祉の分野に貢献できる。
- 4 (生涯にわたって)自主的かつ継続的に自己啓発できる。

学年目標

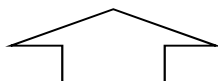
3年次

- 1 他職種の中で看護師の役割を実践できる。
- 2 自己の課題の達成に向け、計画的に取り組み達成状況を評価できる。



2年次

- 1 知的好奇心をもって自分なりに解決することができる。
- 2 科学的根拠をもち対象にあった看護実践ができる。
- 3 地域の特性に対して他職種との協力を得ながら解決方法を見出すことができる。
- 4 自己の学習課題を明確にして、目標をもって取り組むことができる。



1年次

- 1 物事や人間に対する興味や関心をもつことができる。
- 2 生命と人格を尊重でき、誰にでも思いやりをもった行動ができる。
- 3 生命・安全を保障するための基本的な知識・技術・態度が理解できる。
- 4 自分の生活の場を知り、秋田県の特徴が理解できる。
- 5 学習の必要性を理解し、学習習慣を身につけることができる。

看護教育の主要概念の定義

多様性

人はさまざまな背景を持つ者と捉える。人間らしさ。

倫理

道徳の規範となる原理。

人間理解

自分と自分以外の他の者を理解する。

看護の対象

看護を必要とする人

実践能力

実際に履行するために必要な知識・技術・態度。

社会

人間が集まって組織的な共同生活をする環境。

チーム

それぞれの職種の力を発揮し共に仕事をする一団。

マネジメント

生涯を通して、健康のために培った能力を活用すること。

ICT

通信技術を活用した情報共有のスキル。

研究

物事を詳しく調べたり、深く考えたりして、事実や真理を明らかにする。

キャリア形成

専門職として、自らの責任において、生涯にわたって自己の能力の開発・維持・向上に努め、社会人として成長する。

感性

あらゆる物事や人間に対する興味や関心を持ち、これらに対する知的好奇心をもって自分なりに解決しようとするプロセス。「生きる力」は感性に含める。

尊重

人間の生命、人間としての尊厳を尊い者として重んじる。相手の気持ちを大切に尊い者として敬意を示す。

秋田

秋田県は、少子高齢化が進み、生活習慣病の発生率が高く健康問題が深刻な地域である。地域の特性を踏まえ疾病予防、健康増進などあらゆる場面で対応していく総合的能力が必要とされる看護職が求められている。

レジリエンス

しなやかな強さを持ち、困難な社会にも看護師として適応し生き延びる力。

単位履修と学期・講義

1 単位履修

科目別単位数は、1 単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、次に掲げる基準により計算するものとする。

- (1) 1 単位の授業時間数は、講義及び演習は15時間から30時間まで、実験、実習及び実技については30時間から45時間までの範囲で構成するものとする。
- (2) 臨地実習については、1 単位を45時間の実習をもって構成するものとする。

〔単位の認定〕

単位の修得は、講義に必要な時間数を出席し、その試験を合格した者に所定の単位を与える。

2 学期

1年次を2学期に分ける	前期：4月1日から9月30日 後期：10月1日から3月31日
-------------	-----------------------------------

3 授業時間

出校曜日：月曜日から金曜日

1 講：90分

1 日：4講

1 週：40時間

時限	授業時間
SHR 1時限 2時限 3時限 4時限 } 4講	8:50 ~ 9:00
	9:00 ~ 10:30
	10:40 ~ 12:10
	13:10 ~ 14:40
	14:50 ~ 16:20

4 実習時間

8:30~16:15

1単位 45時間(5日間)とする
2単位 90時間(10日間)とする

科目設定及び設定理由

基礎分野

科目名と科目の設定理由	
情報リテラシー	情報社会に対応するために情報分析する知識と統計処理について理解し、看護に応用できる基礎とする。
生物学	生体を構成する細胞の構造や発生・遺伝などの生命の仕組みを理解することで、人間理解の基礎とする。
論理学	論理的思考を学習することで、自らの思考を検証していく科学的態度を養う。
教育学	教育の基本的な考えを知り、健康教育・患者教育の基礎知識を理解し、看護に必要な指導方法の基盤とする。
英語	広い視野にたつて国際的に活躍できる素地を育成する。
人間関係論	人間関係の形成に必要な知識や技術を学ぶことで、さまざまな場面における対人関係成立の基礎とする。
文学	文学作品に触れることで、洞察力と感性を育てる。さらに読解力・表現力を身につけることで人としての豊かさを育成する。
心理学	人間の知覚、感情、認知、行動、心の発達を心理学的な立場から理解し、人間理解の基盤とする。
カウセリング	看護の対象となる人々の健康問題に共感的理解をもって解決に導くための技術を習得する。
社会学	社会に目を向け、社会の構造とそれを構成する人・家族・集団の関係や機能を理解する。
倫理学	生命をとりまく医療の現状を学び、生命の尊厳と人権擁護について理解する。
スポーツ科学	学生が自己の健康を維持・増進に必要な知識・技術の習得と実践を通して、健康管理の方法を理解する。
家族関係論	社会の最小単位である家族の在り方を通して、家族とは、家族関係とは、家族と社会の関連などを学習することで、対象の理解を深めるとともに健康指導の実践能力を高める。
看護におけるホスピタリティ	接遇は組織のイメージを大きく左右するものである。医療組織の一員としての意識を持ち、安心感と信頼を与えることができる能力を育成する。

専門基礎分野

科目名と科目の設定理由	
からだの仕組みと働きⅠ	人体を系統だて理解し、健康と疾病の理解の基礎とする。さらに、体の細胞・組織・器官の生理機能を理解し、解剖学と関連づけ、疾病の成り立ちの理解と回復の促進の援助技術の基礎とする。
からだの仕組みと働きⅡ	
からだの仕組みと働きⅢ	
形態機能学	人間が日常生活を営む上で、どのように身体の構造と機能を使い、生活者として暮らしているかを学び、援助技術の基礎とする。
生化学	生体を構成する物質や生体内の物質代謝について学び、健康維持の方法や疾病による変化を理解し援助技術の基礎とする。
栄養学	看護の対象となる人々の健康の保持・増進・あるいは回復のために健康な食生活が営まれるための看護援助の基礎とする。
微生物学	健康を脅かす微生物の働きと感染の関係、発生のメカニズムを理解し、変化する感染症への対応や感染予防対策の基礎とする。
病態学総論	疾病のメカニズム、疾病による機能障害と治療法を学ぶことで、健康の回復増進の援助技術の基礎とする。
呼吸器の病態論	
循環器の病態論	
消化器の病態論	
腎・泌尿器の病態論	
内分泌・代謝・造血の病態論	
脳神経系の病態論	
運動器の病態論	
生殖器の病態論	
小児の病態論	
精神の病態論	
薬理学	薬理作用や有害作用について学習することで、治療の促進、医療過誤防止の基礎とする。
健康科学	健康とは何か、健康の阻害因子など影響を与える要因は何か、また健康の保持増進の方法とは何かを科学的に学び健康教育の基礎とする。
公衆衛生学	環境が健康に及ぼす影響、健康を維持する上で必要な環境への働きなど、健康と環境の関係を学習することで、セルフケア能力を高めるための援助技術の基礎とする。
社会福祉	社会福祉の概念と歴史を学び、福祉制度とサービスを理解し看護活動に活かせる援助技術の基礎とする。
チーム医療論	チーム医療の意義と目的を学び、各職種の専門性と多職種との協働、各チームにおける機能・役割について理解し、チーム医療における看護の役割を考える基礎とする。
関係法規Ⅰ	医療及び生活に関連した諸法規の種類や内容、看護職の法的責任を学ぶことで、医療現場における安全確保の援助技術の基礎とする。
関係法規Ⅱ	

専門分野

科目名と科目の設定理由	
基礎看護学	看護の概念と看護の役割を認識し、人間の理解と看護実践の基礎的能力を養う。
地域・在宅看護論	地域・在宅で生活する人々と家族の健康を支援するために生活の基盤である地域を理解し、健康と暮らしを継続的に支援することを学ぶ。
成人・老年看護学	成人・老年における、各健康レベルの特徴を理解し、生命の維持・回復、生活の再構築と日常生活への適応に向けた看護について理論と方法を学ぶ。
成人看護学	成人期にある人々の身体的・心理・社会的、スピリチュアル的特徴および発達段階を理解し、あらゆる健康レベルにある成人期の対象が抱える健康問題とそれらの解決を支援する看護について学ぶ。
老年看護学	高齢者を取り巻く社会を理解し、高齢者の特徴と老化に応じた看護に必要な基礎的知識、技術、態度を学ぶ。
小児看護学	小児を次の時代を担う大切な存在であることを認識し、小児期にある人たちが日々成長・発達し続けることを理解し、疾病や障害を持つ各期の特徴を理解し、小児と家族、取り巻く人への看護の在り方を学ぶ。
母性看護学	女性の健康を守るために学ぶべきことは、母性の概念や母子保健、リプロダクティブヘルス/ライツ、ライフサイクル各期における看護など多岐にわたる。このような女性の生涯の健康と次世代育成のための支援を学ぶ。
精神看護学	人間の健全な心の発達と心の健康に影響を与える要因を理解する。心の健康を維持するための援助、心のバランスを崩している人や精神に障害をもつ人とその家族に対する援助について学習する。その過程を通して自己洞察し得る態度を養う。
看護の統合と実践	看護師は様々な環境下で、様々な価値観、文化的背景を持った対象に対応できる能力を養う必要がある。また、組織の中での看護師の役割を学び多職種と連携して対象を支援していく能力を育成する。さらに、対象の状況に応じて既習の知識・技術・態度を引き出し、それらを統合した学習場面から臨床判断能力を養う。

教育課程の構造図

基礎分野から専門基礎分野、そして専門分野の学習の統合である。

専門分野
臨地実習: 老年看護学実習、小児看護学実習、母性看護学実習、精神看護学実習、看護の統合と実践 成人期の健康管理実習、成人期の慢性・終末期実習 成人・老年期の周手術期実習 地域・在宅看護論実習Ⅰ、地域・在宅看護論実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ、基礎看護学実習Ⅲ
看護の統合と実践: 国際看護、災害看護、看護マネジメントと医療安全、看護の統合 精神看護学: 精神看護学概論、精神看護技術、精神の健康障害と看護、精神障害者の日常生活援助 母性看護学: 母性看護学概論、周産期ケア論、母性看護技術、周産期の健康逸脱と看護 小児看護学: 社会の中でともに育つ子ども、健康障害をもつ子どもとその家族、子どもの病気と看護、子どものケア 老年看護学: 高齢者を支えるための看護、健康障害をもつ高齢者の回復を促す看護 高齢者のより健康な生活を支援する看護 成人看護学: 社会の中の成人看護、がんとともに生きる成人看護、生きているための成人看護、生きていくための成人看護 成人看護技術成人 成人・老年看護学: 成人・老年期の生命の危機にある人の看護、成人・老年期の生を支え再構築する看護
地域・在宅看護論: 秋田を知る、暮らしの理解、地域・在宅看護概論、暮らしと環境、健康と暮らしを支える技術 健康と暮らしを支える看護
基礎看護学: 看護学概論、看護倫理、看護研究概説、フィジカルアセスメント、基本的技術Ⅰ～Ⅱ、看護過程 日常生活の援助技術Ⅰ～Ⅱ、診療の補助技術Ⅰ～Ⅱ

専門基礎分野

健康支援と社会保障制度: 健康科学・公衆衛生学・社会福祉・チーム医療・関係法規Ⅰ～Ⅱ
疾病の成り立ちと回復の促進: 病態学総論・呼吸器の病態論・循環器の病態論・消化器の病態論・腎・泌尿器の病態論 内分泌・代謝・造血の病態論・脳神経の病態論・運動器の病態論・生殖器の病態論 小児の病態論・精神の病態論・薬理学
人体の構造と機能: からだの仕組みと働きⅠ～Ⅲ・形態機能学・生化学・栄養学・微生物学

基礎分野

人間と生活、社会の理解: 人間関係論・文学・心理学・カウセリング・社会学・倫理学 スポーツ科学・家族関係論・看護におけるホスピタリティ 科学的思考の基盤: 情報リテラシー・生物学・論理学・教育学・英語
--

教育内容、授業科目、単位数及び時間数

教育内容		授 業 科 目	単 位
基礎分野	科学的思考の基盤	情報リテラシー	1
		生物学	1
	論理学	1	
	教育学	1	
	英語	1	
		計	5
基礎分野	人間と生活・社会の理解	人間関係論	1
		文学	1
		心理学	1
		カウンセリング	1
		社会学	1
		倫理学	1
		スポーツ科学	1
		家族関係論	1
		看護におけるホスピタリティ	1
	計	9	
	基礎分野小計		14
専門基礎分野	人体の構造と機能	からだの仕組みと働きⅠ	1
		からだの仕組みと働きⅡ	1
		からだの仕組みと働きⅢ	1
		形態機能学	1
		生化学	1
		栄養学	1
		微生物学	1
			計
	疾病の成り立ちと回復の促進	病態学総論	1
		呼吸器の病態論	1
		循環器の病態論	1
		消化器の病態論	1
		腎・泌尿器の病態論	1
		内分泌・代謝・造血の病態論	1
脳神経の病態論		1	
運動器の病態論		1	
生殖器の病態論		1	
小児の病態論		1	
精神の病態論		1	
薬理学	1		
	計	12	
健康支援と社会保障制度	健康科学	1	
	公衆衛生学	1	
	社会福祉	1	
	チーム医療論	1	
	関係法規Ⅰ	1	
	関係法規Ⅱ	1	
	計	6	
	専門基礎分野小計		25
専門分野	基礎看護学	看護学概論	1
		看護倫理	1
		看護研究概説	1
		フィジカルアセスメント	1
		基本的技術Ⅰ	1
		基本的技術Ⅱ	1
		看護過程	1
		日常生活の援助技術Ⅰ	1
		日常生活の援助技術Ⅱ	1
		診療の補助技術Ⅰ	1

	診療の補助技術Ⅱ	1
	計	11
地域・在宅看護論	秋田を知る 暮らしの理解 地域・在宅看護概論 暮らしと環境 健康と暮らしを支える技術 健康と暮らしを支える看護	1 1 1 1 1 1
	計	6
成人・老年看護学	成人・老年期の生命の危機にある人の看護 成人・老年期の生を支え再構築する看護	1 1
	計	2
成人看護学	社会の中の成人看護学 がんとともに生きる成人看護 生きているための成人看護 生きていくための成人看護 成人看護技術	1 1 1 1 1
	計	5
老年看護学	高齢者を支えるための看護 健康障害をもつ高齢者の回復を促す看護 高齢者のより健康な生活を支援する看護	1 1 1
	計	3
小児看護学	社会の中でともに育つ子ども 健康障害をもつ子どもとその家族 子どもの病気と看護 子どものケア	1 1 1 1
	計	4
母性看護学	母性看護学概論 周産期ケア論 母性看護技術 周産期の健康逸脱と看護	1 1 1 1
	計	4
精神看護学	精神看護学概論 精神看護技術 精神の健康障害と看護 精神障害者の日常生活援助	1 1 1 1
	計	4
看護の統合と実践	国際看護 災害看護 看護マネジメントと医療安全 看護の統合	1 1 1 1
	計	4
	専門分野小計	43
臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 地域・在宅看護論実習Ⅰ 地域・在宅看護論実習Ⅱ 成人・老年期の周手術期実習 成人期の健康管理実習 成人期の慢性・終末期実習 老年看護学実習 小児看護学実習 母性看護学実習 精神看護学実習 看護の統合と実践	1 1 2 2 2 2 1 2 2 2 2 2 2
	臨地実習小計	23
	3分野・臨地実習合計	105

令和6年度 講師名簿

	教育内容	授業科目	単位	時間	講師名	専任・兼任	所 属 先	年次	時期
基礎分野	科学的思考の基盤	情報リテラシー	1	30	小林 秀 樹	兼任	(有)ネットバーンソズ	1	前期
		生物学	1	30	河 又 邦 彦	兼任	秋田大学教育文化学部	1	後期
		論理学	1	30	田 子 多津子	兼任	前職 慶応義塾大学言語文化研究所	1	後期
		教育学	1	15	山 口 香 苗	兼任	秋田大学教育文化学部	1	前期
		英語	1	30	宮 本 律 子	兼任	秋田大学国際資源学研究所	2	前期
	人間と生活・社会の理解	人間関係論	1	30	佐々木 久 長	兼任	秋田大学大学院医学系研究科	1	前期
		文学	1	30	佐 藤 雅 彦	兼任	JET日本語集中講座事務局, 秋田大学高等教育グローバルセンター	1	前期
		心理学	1	30	森 和 彦	兼任	前職 秋田大学教育文化学部	1	後期
		カウンセリング	1	30	濱 田 拓	兼任		2	前期
		社会学	1	30	和 泉 浩	兼任	秋田大学教育文化学部	1	前期
		倫理学	1	15	田 子 多津子	兼任	前職 慶応義塾大学言語文化研究所	1	後期
		スポーツ科学	1	30	松 下 翔 一	兼任	秋田大学教育文化学部	1	前期
		家族関係論	1	30	佐々木 久 長	兼任	秋田大学大学院医学系研究科	1	後期
		看護におけるホスピタリティ	1	15	皆 川 千 年	専任	教務主任	1	前期
専門基礎分野	人体の構造と機能	からだの仕組みと働きⅠ	1	30				1	前期
		からだの仕組みと働きⅡ	1	30	坂 東 良 雄	兼任	秋田大学大学院医学系研究科	1	前期
		からだの仕組みと働きⅢ	1	15				1	後期
		形態機能学	1	30	柳 山 日出樹	兼任	前職 学校法人コア学園 秋田リハビリテーション学院	1	前期
					佐々木 寿美礼	専任	専任教員	1	前期・後期
		生化学	1	30	眞 崎 容 子	兼任	前職 秋田大学院医学系研究科	1	前期・後期
	栄養学	1	15	新 田 智 子	兼任	秋田大学医学部	1	後期	
	微生物学	1	30	原 田 誠三郎	兼任	前職 秋田県総合保健事業団	1	後期	
	疾病の成り立ちと回復の促進	病態学総論	1	15	川 村 公 一	兼任	早稲田大学先進理工学部	1	前期
		呼吸器の病態論	1	30	伊多波 未 来	兼任	秋田赤十字病院附属あきた健康管理センター	1	後期
					福 井 伸	兼任	秋田厚生医療センター	1	
		循環器の病態論	1	30	阿 部 芳 久	兼任	市立秋田総合病院	1	後期
		消化器の病態論	1	30	小 松 眞 史	兼任	市立秋田総合病院	1	後期
					中 根 邦 夫	兼任	市立秋田総合病院		
					辻 剛 俊	兼任	市立秋田総合病院		
					津 田 聡 子	兼任	市立秋田総合病院		
					菅 原 佳 恵	兼任	市立秋田総合病院		
		腎・泌尿器の病態論	1	30	大 谷 浩	兼任	雄勝中央病院	1	後期
		内分泌・代謝・造血の病態論	1	30	石 田 俊 哉	兼任	市立秋田総合病院	2	前期
					三 浦 岳 史	兼任	市立秋田総合病院		
		脳神経の病態論	1	15	山 口 昭 彦	兼任	前職 秋田郵政健康管理センター	2	前期
		運動器の病態論	1	15	猪 股 拓 海	兼任	市立秋田総合病院	2	前期
		運動器の病態論	1	15	畠 山 雄 二	兼任	大曲厚生医療センター	2	前期
		生殖器の病態論	1	15	軽 部 裕 子	兼任	市立秋田総合病院	2	前期・後期
		小児の病態論	1	15	武 田 修	兼任	市立秋田総合病院	2	前期
	精神の病態論	1	30	水 俣 健 一	兼任	市立秋田総合病院	2	前期	
				内 藤 信 吾	兼任	市立秋田総合病院			
				小 松 宗 央	兼任	市立秋田総合病院			
			堀 井 悠 一 郎	兼任	市立秋田総合病院				
			高 橋 将 太	兼任	市立秋田総合病院				
薬理学	1	30	時 田 圭 子	兼任	市立秋田総合病院	2	後期		
			藤 原 洋 之	兼任	男鹿みなと市民病院				
			梅 田 慎 也	兼任	市立秋田総合病院				
			門 田 祥 吾	兼任	市立秋田総合病院				
			今 野 正 樹	兼任	市立秋田総合病院				
健康支援と社会保障制度	健康科学	1	15	伊 藤 善 信	兼任	秋田市保健所	1	前期	
	公衆衛生学	1	15	添 野 武 彦	兼任	本荘第一病院	1	後期	
	社会福祉	1	30	米 谷 恭 一	兼任	前職 秋田中央福祉会	3	後期	
				伊 藤 梅 香	兼任	市立秋田総合病院			
	チーム医療論	1	15	成 田 雷 美	兼任	医療法人運忠会土崎病院	3	前期	
	関係法規Ⅰ	1	15	柳 山 日出樹	兼任	前職 学校法人コア学園 秋田リハビリテーション学院	3	後期	
	関係法規Ⅱ	1	15	菊 地 富 貴 子	兼任	秋田県看護協会 訪問看護ステーションあきた	3	後期	
専門分野	基礎看護学	看護学概論	1	30	佐々木 真紀子	専任	前職 秋田大学大学院医学系研究科	1	前期
					長谷部 真木子	兼任	秋田大学大学院医学系研究科		
	看護倫理	1	15	京 野 順 子	専任	副学長	2	前期	
				石 川 千 夏	兼任	市立秋田総合病院			
	看護研究概説	1	30	京 野 順 子	専任	副学長	3	後期	
	フィジカルアセスメント	1	30	高 橋 久 美 子	専任	専任教員	1	前期・後期	
	基本的技術Ⅰ	1	15	中 川 ま ゆ 子	専任	専任教員	1	前期	
	基本的技術Ⅱ	1	15	中 川 ま ゆ 子	専任	専任教員	1	前期	
	看護過程	1	30	藤 本 具 子	専任	専任教員	1	後期	
	日常生活の援助技術Ⅰ	1	15	皆 川 千 年	専任	専任教員	1	前期	
	日常生活の援助技術Ⅱ	1	30	薄 田 悦 子	専任	専任教員	1	前期	
	診療の補助技術Ⅰ	1	15	高 橋 文 子	専任	専任教員	1	後期	
	診療の補助技術Ⅱ	1	15	高 橋 久 美 子	専任	専任教員	2	後期	

専門分野	地域・在宅看護論	秋田を知る	1	15	新堀 道生	兼任	秋田県立博物館	1	前期
					丸谷 仁美	兼任	秋田県立博物館		
					藤中 由美	兼任	秋田県立博物館		
					齋藤 知佳子	兼任	秋田県立博物館		
					中川 まゆ子	専任	専任教員		
		暮らしの理解	1	15	中川 まゆ子	兼任	専任教員	1	前期
		地域・在宅看護概論	1	15	佐藤 聡美	兼任	前職 中通高等看護学院	1	前期
					藤本 具子	専任	専任教員		
		暮らしと環境	1	30	八代 雄市	兼任	秋田聖徳会多機能型支援センター第二聖和	1	前期
					藤本 具子	専任	専任教員		
	健康と暮らしを支える技術	1	30	田畑 美雪	兼任	彩の風訪問看護ステーション	2	前期	
	健康と暮らしを支える看護	1	30	佐藤 研	専任	(株)グリーンリーフ 訪問看護ステーション赤とんぼ	2	前期	
				藤本 具子	専任	専任教員			
	成人・老年看護学	成人・老年期の生命の危機にある人の看護	1	30	皆川 千年	専任	教務主任	2	前期
		成人・老年期の生を支え再構築する看護	1	30	高橋 文子	専任	専任教員	2	前期
	成人看護学	社会の中の成人看護	1	15	高橋 文子	専任	専任教員	1	後期
		がんとともに生きる成人看護	1	30	皆川 千年	専任	教務主任	2	後期
		生きているための成人看護	1	30	高橋 久美子	専任	専任教員	2	前期
		生きていくための成人看護	1	30	高橋 文子	専任	専任教員	2	前期
		成人看護技術	1	15	筒井 あずか	兼任	市立秋田総合病院	2	前期
	高橋 文子				専任	専任教員			
	老年看護学	高齢者を支えるための看護	1	15	佐藤 聡美	兼任	前職 中通高等看護学院	1	後期
		健康障害をもつ高齢者の回復を促す看護	1	30	佐藤 聡美	兼任	前職 中通高等看護学院	2	前期
		高齢者のより健康な生活を支援する看護	1	30	佐藤 聡美	兼任	前職 中通高等看護学院	2	後期
	藤本 具子				専任	専任教員			
	小児看護学	社会の中でともに育つ子ども	1	30	薄田 悦子	専任	実習調整者	2	前期
		健康障害をもつ子どもとその家族	1	30	山本 尚樹	兼任	市立秋田総合病院	2	前期・後期
					薄田 悦子	専任	実習調整者		
		子どもの病気と看護	1	15	薄田 悦子	専任	実習調整者	2	後期
		子どものケア	1	30	大高 恵美	兼任	日本赤十字秋田看護大学	2	後期
				薄田 悦子	専任	実習調整者			
	母性看護学	母性看護学概論	1	30	佐々木 寿美礼	専任	専任教員	2	前期
		周産期ケア論	1	30	中村 幸恵	兼任	並木クリニック	2	前期・後期
		母性看護技術	1	15	佐々木 寿美礼	専任	専任教員	2	後期
		周産期の健康逸脱と看護	1	30	佐々木 寿美礼	専任	専任教員	2	後期
	精神看護学	精神看護学概論	1	30	京野 順子	専任	副学長	2	前期
		精神看護技術	1	15	中川 まゆ子	専任	専任教員	2	前期
					精神の健康障害と看護	1	30		
		齋藤 武彦	兼任	市立秋田総合病院					
		中川 まゆ子	専任	専任教員					
	精神障害者の日常生活援助	1	30	高橋 将太	兼任	市立秋田総合病院	2	後期	
				中川 まゆ子	専任	専任教員			
	看護の統合と実践	国際看護	1	15	新沼 剛	兼任	日本赤十字秋田看護大学	3	後期
		災害看護	1	15	熊谷 洋子	兼任	秋田厚生医療センター	3	前期
		看護マネジメントと医療安全	1	30	吹谷 由美子	兼任	秋田県看護協会	3	前期
					櫻田 明子	兼任	市立秋田総合病院		
	看護の統合	1	15	皆川 千年	専任	教務主任	3	前期	
臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	45	佐々木 寿美礼	専任	専任教員	1	前期	
	基礎看護学実習Ⅱ	1	45	薄田 悦子	専任	実習調整者	1	後期	
	基礎看護学実習Ⅲ	2	90	藤本 具子	専任	専任教員	2	前期	
	地域・在宅看護論実習Ⅰ	2	90	藤本 具子	専任	専任教員	1	後期	
	地域・在宅看護論実習Ⅱ	2	90	藤本 具子	専任	専任教員	2	後期	
	成人・老年期の周手術期実習	2	90	皆川 千年	専任	教務主任	2	前期	
	成人期の健康管理実習	1	45	高橋 文子	専任	専任教員	2	後期	
	成人期の慢性・終末期実習	2	90	高橋 久美子	専任	専任教員	2	後期	
	老年看護学実習	2	90	藤本 具子	専任	専任教員	3	前期	
	小児看護学実習	2	90	薄田 悦子	専任	実習調整者	3	前期	
	母性看護学実習	2	90	佐々木 寿美礼	専任	専任教員	3	前期	
	精神看護学実習	2	90	中川 まゆ子	専任	専任教員	3	前期	
	看護の統合と実践	2	90	皆川 千年	専任	教務主任	3	後期	

カウンセラー				戸田 幸子				
--------	--	--	--	-------	--	--	--	--

基礎分野

科目名		講義担当		所属	
情報リテラシー		小林 秀樹		有限会社ネットパーソンズ	
履修時期	1 年前期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
受講上の留意点 実際にパソコンを操作しながら、知識及び基本的操作テクニックを習得しましょう。					
科目のねらい・授業目標 パソコン及び基本アプリケーションの基本操作方法を習得する。 インターネットの関わる基本リテラシーを高める。					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1 回目	パソコンの基本操作と扱う際の注意			講義・演習	
2 回目	Microsoft Word の操作			講義・演習	
3 回目	Microsoft Word の操作			講義・演習	
4 回目	Microsoft Word の操作			講義・演習	
5 回目	Microsoft Word の操作			講義・演習	
6 回目	Microsoft PowerPoint の操作			講義・演習	
7 回目	Microsoft PowerPoint の操作			講義・演習	
8 回目	Microsoft Word.Excel. PowerPoint のまとめ			テスト/課題	
9 回目	クラウド上でのファイル処理			講義・演習	
10 回目	インターネットセキュリティ			講義・演習	
11 回目	情報収集/検索のしかた			講義・演習	
12 回目	情報の取捨選択・ファクトチェック			講義・演習	
13 回目	看護/医療に関わる統計処理			講義・演習	
14 回目	看護/医療に関わる統計処理			講義・演習	
15 回目	看護/医療に関わる統計処理			講義・演習	
16 回目	試験			テスト/課題	
評価方法 課題提出 30 点 ポストテスト 70 点					
使用するテキスト 医療・看護系のための情報リテラシー/東京図書					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
生物学		河又 邦彦		秋田大学教育文化学部	
履修時期	1年後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点 暗記に頼らない勉強法を身につけましょう。細部の事象を覚えるのではなく、生物全体の仕組みを捉えるように心がけましょう。					
科目のねらい・授業目標 生命の概要を理解することを目的とする。 1) 生体分子を4つあげ、その構造を説明できる。 2) 代謝について理解している。 3) 酵素と遺伝子の関係を説明できる。 4) 細胞分裂、減数分裂における染色体の挙動を説明できる。					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	生命とは			講義	
2回目	生体を構成する分子(タンパク質)			講義	
3回目	生体を構成する分子(核酸)			講義	
4回目	生体を構成する分子(糖質・脂質)			講義	小テスト①
5回目	原核細胞			講義	
6回目	真核細胞			講義	
7回目	組織とは			講義	小テスト②
8回目	遺伝情報の流れ(DNAの複製)			講義	
9回目	遺伝情報の流れ(転写)			講義	
10回目	遺伝情報の流れ(翻訳)			講義	小テスト③
11回目	代謝とは			講義	
12回目	呼吸			講義	
13回目	光合成の概要			講義	
14回目	細胞周期と体細胞分裂			講義	
15回目	減数分裂			講義	小テスト④
16回目	試験				
評価方法 小テスト①-④(40%)および試験(60%)により評価する					
使用するテキスト プリントを配布する					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
論理学		田子 多津子		前職 慶応義塾大学言語文化研究所	
履修時期	1年後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標 物事を論理的に考える論理的思考能力を養う。 1, 論理学の基礎 2, 論理的思考とは何か 3, 論理的思考の実践 (様々な事実や情報の分析に基づいて問題を解決する思考力を養う)					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	導入－論理とは			講義・演習	
2回目	伝わる書き方の練習			講義・演習	
3回目	接続表現に注意する(1)			講義・演習	
4回目	" (2)			講義・演習	
5回目	" (3) (小テスト①)			講義・演習	
6回目	議論の骨格をとらえる(1)			講義・演習	
7回目	" (2)			講義・演習	
8回目	" (3) (小テスト②)			講義・演習	
9回目	論証-推論(演繹)と推測の違い			講義・演習	
10回目	仮説形成			講義・演習	
11回目	三段論法、暗黙の前提			講義・演習	
12回目	条件構造(1)-「ならば」の構造、逆・裏・対偶			講義・演習	
13回目	条件構造(2)-逆は必ずしも真ならず			講義・演習	
14回目	否定の論理(1)			講義・演習	
15回目	否定の論理(2)			講義・演習	
16回目	試験				
評価方法 授業中の小テスト(40%)と最終の試験(60%)により評価する。					
使用するテキスト 必要に応じてプリントを配布する。 参考書は授業中に適宜紹介する。					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
教育学		山口 香苗		秋田大学教育文化学部	
履修時期	1 年前期	単位数	1 単位	時間数	15時間
<p>受講上の留意点</p> <p>日常の教育的な営みに関心をもってみてください。</p>					
<p>科目のねらい・授業目標</p> <p>本授業では、教育や学校を成り立たせている子ども観や、学校だけにとどまらない社会における教育的営みなどについて検討し、自分なりの教育観をもてるようになることを目標とする。</p>					
授業回数	学習内容と成果		方法	備考	
1 回目	オリエンテーション:「教える」が教育か?		講義 ディスカッション		
2 回目	「子どもの発見」と近代		講義 ディスカッション		
3 回目	日本の子ども観・教育観		講義 ディスカッション		
4 回目	基礎教育と夜間中学		講義 動画視聴		
5 回目	教育と福祉のはざま		講義 動画視聴		
6 回目	生涯学習の理念と展開		講義 ディスカッション		
7 回目	長寿社会における教育・学習		講義 ディスカッション		
8 回目	試験				
<p>評価方法</p> <p>試験時の最終レポートをもとに判断する。</p>					
<p>使用するテキスト</p> <p>特になし。</p>					
<p>参考文献</p> <p>授業時に提示する。</p>					

科目名	講義担当		所属
英 語	宮本 律子		秋田大学国際資源学研究所
履修時期	2年前期	単位数	1単位
			時間数
			30時間
受講上の留意点 ・毎回、前回に勉強したことの復習小テストをおこないます。日々の積み重ねを大事にしましょう。 ・英語の辞書(紙媒体でも電子辞書でも良い)を用意すること。 ・事前に知らない単語を調べ、予習しておきましょう。			
科目のねらい・授業目標 語学力を高め国際感覚を養うとともに英会話によるコミュニケーション技術を習得する。			
授業回数	学習内容と成果		備考
1 回目	Chapter1 患者を迎える		
		方法	
		Dictation	
		Role play	
		Pair work	
2 回目	Chapter2 バイタルサイン測定		小テスト 1
3 回目	Chapter3 痛みのアセスメント		小テスト 2
4 回目	Chapter4 症状		小テスト 3
5 回目	Chapter5 体位変換・移乗		小テスト 4
6 回目	Chapter6 診療科目		小テスト 5
7 回目	Chapter7 まとめ・医学英語の構造		小テスト 6
8 回目	Chapter8 日常生活援助		小テスト 7
9 回目	Chapter9 与薬		小テスト 8
10 回目	Chapter10 排泄		小テスト 9
11 回目	Chapter11 慢性疾患		小テスト 10
12 回目	Chapter12 急性期／手術室		小テスト 11
13 回目	Chapter13 妊婦健診		小テスト 12
14 回目	Chapter14 まとめと医学英文読解		小テスト 13
15 回目	総復習		小テスト 14
16 回目	試験		
評価方法 毎回の小テスト50% 期末試験50%			
使用するテキスト 『Talking with your patients in English』 成美堂			
参考文献 特になし			

科目名		講義担当		所属	
人間関係論		佐々木 久長		秋田大学大学院医学系研究科	
履修時期	1年前期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標 人間関係の基礎的理論を習得する 1, 人間関係の基礎とコミュニケーション 2, 看護における人間関係 4, カウンセリング技法の基礎					
授業回数	学習内容と成果		方法	備考	
1回目	関係の主体者としての「私」		講義(一部演習)		
2回目	人間の存在性について				
3回目	出会いと関係性にする理解				
4回目	コミュニケーションの基本的理解				
5回目	傾聴とロールプレイ				
6回目	うつ状態にある人への対応				
7回目	希死念慮のある人への対応				
8回目	交流分析の理解				
9回目	交流分析の理解				
10回目	患者と看護師の人間関係				
11回目	患者と看護師の人間関係				
12回目	カウンセリング技法の基礎				
13回目	カウンセリング技法の基礎				
14回目	人間関係における病理				
15回目	まとめ				
16回目	試験				
評価方法					
試験とレポート					
使用するテキスト					
授業中に資料を配付する					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
文学		佐藤 雅彦		JET 日本語集中講座事務局 秋田大学高等教育グローバルセンター	
履修時期	1年前期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点 授業は予習を前提としてすすめます。					
科目のねらい・授業目標 深い洞察力と豊かな感性を育て、読解力や表現力を育てる。 看護の対象である人間を理解し、人を思いやれる豊かな人間性を育てる。					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	ガイダンス			講義・演習	
2回目	文学作品およびその映像化作品などに接する 要旨、感想などを他の人が読んでわかるように書く 論理的な構成の文章を書く データから情報を読み取って言語化する 授業のまとめ			講義・演習	
3回目					
4回目					
5回目					
6回目					
7回目					
8回目					
9回目					
10回目					
11回目					
12回目					
13回目					
14回目					
15回目					
16回目	期末テスト				
評価方法 評価は以下の観点から行います。 小テスト30%、期末テスト30%、文章作成30%、授業への参加度10%					
使用するテキスト 授業中に資料を配付します。					
参考文献					

科目名	講義担当		所属		
心理学	森 和彦		前職 秋田大学教育文化学部		
履修時期	1年後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点 授業の進め方等は、シャトルカードの返還等による前回の補足説明→講義の聴取によるノート作成→シャトルカードの提出→ノートによるテキスト編集(放課後)の手順で進めます。看護師養成のための基礎科目であるため、聴解力、読解力、集中力を必要とするかなり厳しい授業になります。講義の場に座っているだけでは受講とは言えません。積極的な取り組みを期待します。					
科目のねらい・授業目標 生涯発達心理学を軸に、看護師にとって必要な心理学的知見を概観し、自己研鑽・現場実践に役立つよう理解する。 ＊特に援助専門家とクライアントの心理的レジリエンスの視点は重要					
授業回数	学習内容と成果		方法	備考	
1回目	「心の科学」についての理解		講義		
2回目	生涯発達の視点・背景を理解する。		講義		
3回目	発達障害の概念と「できる/できない」の捉え方		講義		
4回目	赤子の基本的感覚・認知・行動を理解		講義		
5回目	気質(特性論的理解と支援の在り方)とその発達		講義と演習		
6回目	ヒトのコミュニケーションの発達過程の理解		講義		
7回目	幼児からの自己中心性と意図の読み取りの発達について理解		講義		
8回目	遊びの発達		講義		
9回目	描画表現の発達		講義		
10回目	青年期の特徴と発達課題の理解				
11回目	自己認知・対人認知のゆがみを理解する。		講義		
12回目	ヒトの選択構造化戦略について理解する。		講義と演習		
13回目	生きる力(Key Competency)の発達理解 ストレスマネジメントとLife Skillの獲得		講義		
14回目	恋愛・結婚・子育ての心理学的知見を学ぶ		講義		
15回目	加齢と成熟発達の心理学的知見を学ぶ。		講義		
16回目	試験		ペーパー試験		
評価方法 筆記課題試験で成績は決まる。理解の確認など必要に応じて課題レポート提出およびノート提出を求める。試験も提出物も最低出席数も合格必要条件課題であるが、合格十分条件ではない。また答える量や枚数の多さも合格十分条件にならない。					
使用するテキスト 対人援助職のための発達心理学 北樹出版 ISBN978-4-7793-0657-0					
参考文献 参考書:参考プリントなど随時紹介・配付する。 「心理学小辞典」は予習、復習、試験勉強に大変役立ちます。各自自分に分かり易い辞典を手元に置くようにしてください。					

科目名	講義担当		所属
カウンセリング	濱田 拓		フリーランス
履修時期	2年前期	単位数	1単位
			時間数
			30時間
受講上の留意点			
<p>・専門知識の修得のみならず、演習を通して対人技術の向上に励みます。 各種演習についての主体的学びの姿勢も評価の対象といたします。</p>			
科目のねらい・授業目標			
<p>・カウンセリング的なものの見方、人との接し方について学び、さらに他者理解と自己理解を深める事、受容・共感的な態度で援助できるように対人技術を磨く事を目的とする。</p>			
授業回数	学習内容と成果		備考
1回目	カウンセリングの基礎と演習①		講義・演習
2回目	カウンセリングの基礎と演習②		〃
3回目	グループダイナミクスと見立て①		〃
4回目	グループダイナミクスと見立て②		〃
5回目	集団精神療法とグループワーク①		〃
6回目	集団精神療法とグループワーク②		〃
7回目	自己理解と他者理解①		〃
8回目	自己理解と他者理解②		〃
9回目	傾聴とアセスメント①		〃
10回目	傾聴とアセスメント②		〃
11回目	チーム医療と集団療法①		〃
12回目	チーム医療と集団療法②		〃
13回目	個人療法と集団療法①		〃
14回目	個人療法と集団療法②		〃
15回目	まとめ		〃
16回目	試験		
評価方法			
<p>1. 2/3以上の出席 2. 演習での積極性や主体性 3. 最終試験の60以上合格</p>			
使用するテキスト			
<p>看護カウンセリング論～看護師による「カウンセリング事例」集 北島謙吾編 学術研究出版</p>			
参考文献			

科目名		講義担当		所属	
社会学		和泉 浩		秋田大学教育文化学部	
履修時期	1年前期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
<p>科目のねらい・授業目標</p> <p>看護の対象である人間の社会的行為、社会関係、社会集団、社会の構造を学び、社会的存在として理解する。家族についての基礎的理解と家族が直面している現実問題について理解する。</p> <p>1, 社会の概念 2, 社会を形成する基礎的要素 3, 社会集団と社会行為 4, 家族のあり方と現実問題</p>					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	社会学の考え方			講義	
2回目	社会学誕生の背景			講義	
3回目	代表的な社会学者の社会理論			講義	
4回目	社会調査と統計			講義	
5回目	健康格差、平等をめぐる問題			講義	
6回目	医療と健康、看護の社会			講義	
7回目	生命倫理(バイオエシックス)と社会			講義	
8回目	試験				
	各テーマを1回から3回の授業で扱いますが、授業の進行具合により内容を変更することがあります。				
評価方法					
筆記試験					
使用するテキスト					
授業内容に関連する文献等をそのつど指示します。					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
倫理学		田子 多津子		前職 慶応義塾大学言語文化研究所	
履修時期	1年後期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、教科書の該当箇所を読んで授業に臨むこと。 ・授業中に随時内容についての意見を求めます。 					
科目のねらい・授業目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 生と死に関する多様な観点を知る。 2. 生命倫理の基本的問題に関する知識を身につける。 3. 生命倫理に関する問題について知識をもとに議論できる。 					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	生命倫理の問題の始まり			講義	教科書第1章
2回目	トリアージという考え方			講義	第2章
3回目	命の始まりに関わる諸問題			講義	第3, 4章
4回目	優生思想の展開と背景			講義	第5章
5回目	生殖補助医療と自己決定			講義	第6, 7章
6回目	延命治療と尊厳死			講義	第8-11章
7回目	臓器移植と脳死に関する議論			講義	第11-13章
8回目	試験				
評価方法					
試験 60%、レポート 30%、振り返りカード 10%					
使用するテキスト					
香川智晶『命は誰のものか 増補改訂版』ディスカバー携書 227.2021年 高谷清『重い障害を生きるということ』岩波新書、2011(レポート課題図書)					
参考文献					
授業中に適宜紹介する。					

科目名		講義担当		所属	
スポーツ科学		松下 翔一		秋田大学教育文化学部	
履修時期	1年前期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点 スポーツ実践に適した服装や履物を準備すること。					
科目のねらい・授業目標 健康と生活において、生活習慣の中の運動について重要性を理解し、健全な心身を養う。 1, 理論と方法 2, 技術の習得					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回～9回	学習目標を達成するために、必要な施設・用具の調った各種スポーツ種目(バレーボール、卓球、バドミントン等)をゲーム中心に実践する。また、準備・整理運動のり重要性を理解させ、自己やケガの防止に努める。			講義	
	グループづくり			実技および演習	
	各種スポーツ種目のルールおよび技能についての学習				
	各種スポーツ種目の実践				
10回目	まとめ				
評価方法 出席状況(50%)、授業時の活動状況(30%)、学習意欲(20%)					
使用するテキスト 必要に応じてプリントを配布する。					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
家族関係論		佐々木 久長		秋田大学大学院医学系研究科	
履修時期	1年後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
特になし					
科目のねらい・授業目標					
1, 看護の対象としての家族の基本概念について理解する。 2, 家族看護の基本概念と家族看護のプロセスについて理解する。					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	家族とは何か(家族構造と機能の理解)			講義	
2回目	発達する家族(家族のライフサイクル)			講義	
3回目	システムとしての家族			講義	
4回目	家族を理解するポイント			講義	
5回目	家族ストレスと危機の理解と対応			講義	
6回目	集団としての家族と役割構造			講義	
7回目	家族内コミュニケーションの理解			講義	
8回目	家族療法の基本的理解			講義	
9回目	家族療法の理論			講義	
10回目	家族とパートナーシップとセルフケア			講義	
11回目	家族アセスメント			講義	
12回目	家族と地域・家族と文化			講義	
13回目	実践例の理解 DV／子どもケア／心の問題			講義	
14回目	実践例の理解 臓器提供/壮年期の癌／難病			講義	
15回目	実践例の理解 高齢社会後／終末期			講義	
16回目	試験				
評価方法					
試験(70%)+レポート(20%)+出席状況(10%)					
使用するテキスト					
山崎あけみ他:家族看護学:南江堂					
参考文献					

科目名 看護における ホスピタリティ		講義担当 皆川 千年		所属 秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1 年前期	単位数	1 単位	時間数	15 時間
受講上の留意点					
<p>1.業種を問わず、これまでの顧客体験から、</p> <p>1)心地よいと感じた接客サービス</p> <p>2)嫌な思いをした接客サービスについてまとめておきましょう。</p> <p>2.学習効果を高めるため演習を実施します。</p> <p>3.臨地実習においても活用していきますので積極的に参加しましょう。</p>					
科目のねらい・授業目標					
<p>1.接遇は組織のイメージを大きく左右するものである。</p> <p>医療組織の一員としての意識を持ち、療養生活を支える心と技術を習得する</p>					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1 回目	ホスピタリティに関する基礎的知識について理解できる。 1)看護師としての心を養う			講義	
2 回目	2)身に付けておきたい基本マナーと接遇			講義・演習	
3 回目	医療安全と接遇について理解できる。 1)看護師だからこそ必要なマナーと接遇			講義・演習	
4 回目	自分と患者を守るコミュニケーション力を習得できる。 1)コミュニケーションスキルを身に付けよう			講義・演習	
5 回目	生活場面における接遇の基本について理解できる。 1)地域・在宅訪問時のお作法			講義・演習	在宅実習室使用
6 回目	実習場面でのホスピタリティについて理解できる。 1)これでカンペキ！私たちの実習前チェック！（基礎）			講義・演習	
7 回目	実習場面でのホスピタリティについて理解できる。 1)これでカンペキ！私たちの実習前チェック！（実践） 2)ポートフォリオ作成			講義・演習	ユニフォームを着用し参加のこと
8 回目	試験 まとめ				
評価方法					
筆記試験(90%)＋演習参加状況(10%)					
使用するテキスト					
授業内容に関連する文献等をそのつど指示します。					
参考文献					

專門基礎分野

科目名	講義担当		所属		
からだの仕組みと働き I	板東 良雄		秋田大学大学院医学系研究科		
履修時期	1年前期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点 <p>教科書等をあらかじめ見ておき、学習する内容についてある程度イメージできていることが望ましい。この科目は医学の根幹をなし、すべての科目に関連しているといっても過言ではないため、本来は試験に受かることが目的ではなく実際に臨床でも使える知識を身につけることが重要である。しかしながら、知識量が膨大で講義を一度聞いただけではなかなか理解できず、まとめて短期間に修得するのも難しい。そのため、多くの学生が国家試験前でも苦手としているので、日々少しずつ努力を積み重ねていくことが望まれる。</p>					
科目のねらい・授業目標 <p>臨床現場で必要となる各疾患の病態を修得して診療を実践していくために、人体を構成する臓器や組織がどのように形成・構築され(解剖)、どのような機能を担っているか(生理)について統合的に理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 主要器官・組織の正常機能とその仕組みの概要を説明できる。 2) 疾患の多くは正常構造や機能の異常によって生じることを理解する。 3) 病態生理学の理解につながるような知識・考え方を身につける。 					
授業回数	学習内容と成果		方法	備考	
1回目	解剖の基礎知識(細胞・組織・解剖学的用語)		講義		
2回目	解剖の基礎知識(細胞・組織・解剖学的用語)		講義		
3回目	解剖の基礎知識(細胞・組織・解剖学的用語)		講義		
4回目	解剖の基礎知識(細胞・組織・解剖学的用語)		講義		
5回目	身体の支持と運動(骨格)		講義		
6回目	身体の支持と運動(骨格)		講義		
7回目	身体の支持と運動(骨格)		講義		
8回目	身体の支持と運動(関節)		講義		
9回目	身体の支持と運動(筋肉)		講義		
10回目	身体の支持と運動(筋肉)		講義		
11回目	身体の支持と運動(筋肉)		講義		
12回目	血液		講義		
13回目	免疫		講義		
14回目	免疫		講義		
15回目	免疫		講義		
16回目	試験				
評価方法 <p>試験の成績および出席状況を加味し、総合的に評価する。講義中に小テストなどの形成試験を行う場合にはあらかじめ通知する。</p>					
使用するテキスト <p>系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学 医学書院</p>					
参考文献 <p>トートラ人体の構造と機能(丸善)、人体の解剖生理学(金芳堂)、解剖生理学(南山堂)</p>					

科目名		講義担当		所属	
からだの仕組みと働きⅡ		板東 良雄		秋田大学大学院医学系研究科	
履修時期	1年前期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点 <p>教科書等をあらかじめ見ておき、学習する内容についてある程度イメージできていることが望ましい。この科目は医学の根幹をなし、すべての科目に関連しているといっても過言ではないため、本来は試験に受かることが目的ではなく実際に臨床でも使える知識を身につけることが重要である。しかしながら、知識量が膨大で講義を一度聞いただけではなかなか理解できず、まとめて短期間に修得するのも難しい。そのため、多くの学生が国家試験前でも苦手としているので、日々少しずつ努力を積み重ねていくことが望まれる。</p>					
科目のねらい・授業目標 <p>臨床現場で必要となる各疾患の病態を修得して診療を実践していくために、人体を構成する臓器や組織がどのように形成・構築され(解剖)、どのような機能を担っているか(生理)について統合的に理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 主要器官・組織の正常機能とその仕組みの概要を説明できる。 2) 疾患の多くは正常構造や機能の異常によって生じることを理解する。 3) 病態生理学の理解につながるような知識・考え方を身につける。 					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	循環器			講義	
2回目	循環器			講義	
3回目	循環器			講義	
4回目	呼吸器			講義	
5回目	呼吸器			講義	
6回目	呼吸器			講義	
7回目	消化器			講義	
8回目	消化器			講義	
9回目	消化器			講義	
10回目	泌尿器			講義	
11回目	生殖器			講義	
12回目	生殖器			講義	
13回目	内分泌			講義	
14回目	内分泌			講義	
15回目	内分泌			講義	
16回目	試験				
評価方法 <p>試験の成績および出席状況を加味し、総合的に評価する。講義中に小テストなどの形成試験を行う場合にはあらかじめ通知する。</p>					
使用するテキスト <p>系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学 医学書院</p>					
参考文献 <p>トートラ人体の構造と機能(丸善)、人体の解剖生理学(金芳堂)、解剖生理学(南山堂)</p>					

科目名		講義担当		所属	
からだの仕組みと働きⅢ		板東 良雄		秋田大学大学院医学系研究科	
履修時期	1年後期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点 <p>教科書等をあらかじめ見ておき、学習する内容についてある程度イメージできていることが望ましい。この科目は医学の根幹をなし、すべての科目に関連しているといっても過言ではないため、本来は試験に受かることが目的ではなく実際に臨床でも使える知識を身につけることが重要である。しかしながら、知識量が膨大で講義を一度聞いただけではなかなか理解できず、まとめて短期間に修得するのも難しい。そのため、多くの学生が国家試験前でも苦手としているので、日々少しずつ努力を積み重ねていくことが望まれる。</p>					
科目のねらい・授業目標 <p>臨床現場で必要となる各疾患の病態を修得して診療を実践していくために、人体を構成する臓器や組織がどのように形成・構築され(解剖)、どのような機能を担っているか(生理)について統合的に理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 主要器官・組織の正常機能とその仕組みの概要を説明できる。 2) 疾患の多くは正常構造や機能の異常によって生じることを理解する。 3) 病態生理学の理解につながるような知識・考え方を身につける。 					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	神経(中枢神経)			講義	
2回目	神経(中枢神経)			講義	
3回目	神経(末梢神経)			講義	
4回目	神経(末梢神経)			講義	
5回目	神経(自律神経)			講義	
6回目	感覚器・皮膚			講義	
7回目	感覚器・皮膚			講義	
8回目	試験				
評価方法 <p>試験の成績および出席状況を加味し、総合的に評価する。講義中に小テストなどの形成試験を行う場合にはあらかじめ通知する。</p>					
使用するテキスト <p>系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学 医学書院</p>					
参考文献 <p>トートラ人体の構造と機能(丸善)、人体の解剖生理学(金芳堂)、解剖生理学(南山堂)</p>					

科目名	形態機能学		講義担当 籾山 日出樹 佐々木 寿美礼	所属 前職学校法人コア学園 秋田リハビリテーション学院 秋田市医師会立秋田看護学校
履修時期	1年前・後期	単位数	1単位	時間数 30時間
受講上の留意点				
テキストの講義該当箇所を一読し、予習しておくこと。別途事前学習が必要な場合は前もって提示する。				
科目のねらい・授業目標				
人間が日常生活を営む上で、どのように身体の構造と機能を使い、生活者として暮らしているかを学び、援助技術の基礎とする。 看護実践に生かすために身体の作用機序・調整機構など正常な身体の基礎知識を理解する。				
授業回数	学習内容と成果		方法	備考
1回目	認識し判断し記憶する…神経系① 中枢神経系(脳・脊髄)について理解できる		講義	教科書 資料
2回目	情報を伝える…神経系② 末梢神経系(脳神経・脊髄神経・自律神経)について理解できる		講義	教科書 資料
3回目	動く…運動器① 骨格・骨格筋・関節、反射・随意運動のメカニズムについて理解できる		講義	教科書 資料
4回目	動く…運動器② 筋の収縮機構、日常生活での基本的動きと骨・骨格筋・関節との関連について理解できる		講義	教科書 資料
5回目	話す・見る・聞く・触る…感覚器 眼と視覚、耳と聴覚、鼻と嗅覚、舌と味覚、皮膚と触覚について理解できる		講義	教科書 資料
6回目	食べる…消化器① 嚥下のしくみ、口腔、食道、胃、小腸、大腸について理解できる		講義	教科書 資料
7回目	食べる…消化器② 肝臓、胆嚢、胆管、膵臓、消化・吸収のしくみについて理解できる		講義	教科書 資料
8回目	流通の媒体…血液 血液の成分と機能、血液凝固・免疫系について理解できる		講義	教科書 資料
9回目	流通の原動力…循環器 心臓、血管、リンパ、血圧の調節のしくみについて理解できる		講義	教科書 資料
10回目	息をする…呼吸器 外呼吸と内呼吸、ガス運搬、呼吸運動と調節のしくみについて理解できる		講義	教科書 資料
11回目	トイレに行く…泌尿器① 腎臓の機能、尿の生成と再吸収、排泄のしくみについて理解できる		講義	教科書 資料
12回目	トイレに行く…泌尿器② 浸透圧と体液量調節について理解できる		講義	教科書 資料
13回目	ホルモンのはたらき…内分泌系① ホルモンの作用機序、全身の内分泌腺とその作用について理解できる		講義	教科書 資料
14回目	ホルモンのはたらき…内分泌系② ホルモンによる恒常性維持のしくみと調節について理解できる		講義	教科書 資料
15回目	子どもを産む…生殖器 生殖器の機能と性周期、生殖・発生について理解できる		講義	教科書 資料
16回目	試 験			
評価方法 筆記試験				
使用するテキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学 医学書院				
参考文献 菱沼典子、形態機能学 生活行動からみるからだ、日本看護協会出版会 菱沼典子、形態機能学ワークブック 体験して考える からだのいとなみ 日本看護協会出版会				

科目名		講義担当		所属	
生化学		眞崎 容子		前職 秋田大学大学院医学系研究科	
履修時期	1年前・後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点 ・受講後復習を行い、内容を理解する					
科目のねらい・授業目標 1. 生命現象が化学反応であることを理解する 2. 生命の維持に必要な栄養素の代謝について全体像を理解する 3. 遺伝情報発現の仕組みを理解する					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	生化学に必要な化学の基礎知識			講義	
2回目	糖質 1 構造と機能			講義	
3回目	糖質 2 消化・吸収・代謝			講義	
4回目	脂質 1 構造と機能			講義	
5回目	脂質 2 消化・吸収・代謝			講義	
6回目	タンパク質 1 構造と機能			講義	
7回目	タンパク質 2 消化・吸収・代謝			講義	
8回目	酵素			講義	
9回目	ビタミンとミネラル			講義	
10回目	ホルモンと情報伝達			講義	
11回目	遺伝情報とその発現 1 核酸			講義	
12回目	遺伝情報とその発現 2 遺伝子			講義	
13回目	遺伝情報とその発現 3 タンパク質の生合成			講義	
14回目	遺伝情報とその発現 4 //			講義	
15回目	遺伝情報とその発現 5 細胞の増殖と分化			講義	
16回目	試験				
評価方法 筆記試験					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[2] 生化学 医学書院					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
栄養学		新田 智子		秋田大学医学部	
履修時期	1年後期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点					
<p>科目のねらい・授業目標</p> <p>看護の対象となる人々の健康の保持・増進・あるいは回復のために健康な食生活が営まれるように援助するための専門知識を学ぶ。</p> <p>1. 栄養とは 2. 栄養素の役割 3. 栄養所要量とエネルギー代謝 4. 食事療法の基礎</p>					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	人間栄養学と看護 栄養素の種類とはたらき			講義	
2回目	食物の消化と栄養素の吸収・代謝			講義	
3回目	エネルギー代謝 食事と食品			講義	
4回目	栄養ケア・マネジメント 栄養状態の評価・判定			講義	
5回目	ライフステージと栄養			講義	
6回目	臨床栄養			講義	
7回目	臨床栄養、健康づくりと食生活			講義	
8回目	試験				
評価方法					
筆記試験					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[3] 栄養学 医学書院					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
微生物学		原田 誠三郎		前職 秋田県総合保健事業団	
履修時期	1年後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
予習・復習を十分に行うこと。					
科目のねらい・授業目標					
微生物の基礎、感染とその防御および病原微生物に関連する事項について理解する					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	微生物と微生物学 細菌の性質			講義	
2回目	細菌の性質 ウイルスの性質			講義	
3回目	真菌の性質 感染と感染症			講義	
4回目	感染と感染症 感染に対する生体防御機構			講義	
5回目	感染に対する生体防御機構			講義	
6回目	感染に対する生体防御機構 滅菌と消毒、感染症の検査と診断			講義	
7回目	感染症の検査と診断 感染症の治療			講義	
8回目	感染症の治療 感染症の現状と対策			講義	
9回目	感染症の現状と対策 病原細菌と細菌感染症			講義	
10回目	病原細菌と細菌感染症			講義	
11回目	病原細菌と細菌感染症			講義	
12回目	病原細菌と細菌感染症、 病原ウイルスとウイルス感染症			講義	
13回目	病原ウイルスとウイルス感染症			講義	
14回目	病原ウイルスとウイルス感染症 病原真菌と真菌感染症 寄生虫と衛生動物			講義	
15回目	寄生虫と衛生動物			講義	
16回目	試験				
評価方法					
筆記試験					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[4] 微生物学					
参考文献					
参考図書 標準微生物学第14版 (監修)神谷茂、(編集)錫谷達夫、松本哲哉 医学書院					

科目名		講義担当		所属		
病態学総論		川村 公一		早稲田大学先進理工学部		
履修時期	1年前期	単位数	1単位	時間数	15時間	
受講上の留意点						
科目のねらい・授業目標						
病気は「得体のしれないもの」ではない。体の中に正常とは異なる出来事が生じている。その病気にはそれなりに流れがあって、その振る舞いも予測ができる。この体の中に起きている病気の山を眺め、大きな道筋をつかむ。						
授業回数	学習内容と成果			方法	備考	
1回目	講義の進め方 1. 病気のときに、どのようなことが体の中に起きているか把握ができれば、患者との対応が変わってくるはずである。この病気の成り立ちについて画像・イラストなどを使って説明をする。 2. 授業内容のパワーポイントのデータは事前に配付する。図書館にある参考書などを活用して、復習を主体とする自主学習を促す。 3. 質問は、随時歓迎する。勿論授業中でもオーケーである。			講義		
2回目						
3回目						
4回目						講義の計画
5回目						1. 疾患の成り立ち、生活習慣病
6回目						2. 壊死、創傷治癒
7回目						3. 血栓と塞栓 4. 浮腫の原因
8回目	5. 感染症と炎症 6. 心筋梗塞と脳卒中 7. 腫瘍の発生と分類					
8回目	試験					
評価方法						
筆記試験（学習課題は講義で提示する）						
使用するテキスト						
系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[2] 病態生理学						
参考図書						
大橋健一他、系統看護学講座 病理学(医学書院) 深山正久、はじめの一步のイラスト病理学(羊土社)など						

科目名		講義担当		所属	
呼吸器の病態論		伊多波 未来 福井 伸		秋田赤十字病院附属あきた健康管理センター 秋田厚生医療センター	
履修時期	1年後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標					
・呼吸器障害の特徴と治療・検査について理解する。					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	1 呼吸器系の基礎			講義	伊多波未来
2回目					
3回目					
4回目					
5回目	2 呼吸器系の臨床			講義	福井 伸
6回目					
7回目					
8回目					
9回目					
10回目					
11回目	2)疾患の理解 (1)感染症 (2)間質性肺疾患・起動疾患・呼吸器不全・肺腫瘍・胸膜疾患			講義	福井 伸
12回目					
13回目					
14回目					
15回目					
16回目	試験				
評価方法					
筆記試験によるが授業態度も加味する。 試験は2回行う。					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [2]呼吸器 医学書院					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
循環器の病態論		阿部 芳久		市立秋田総合病院	
履修時期	1年後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標					
循環器機能障害の特徴と治療・検査について理解する。					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	1 心臓の解剖と生理 特に肉眼的解剖 (この理解があって初めて次のステップへ進める。) 2 虚血性心疾患 1) 動脈硬化の成因(危険因子とその管理を含む) 2) 狭心症の病態、診断、治療 3) Acute Coronary Syndrome(急性冠症候群)の病態、診断、治療 3 不整脈 1) 心臓刺激伝導系の理解と心電図上の意味 2) 徐脈性不整脈の病態、診断、治療 3) 頻脈性不整脈の病態、診断、治療 4) 致死性不整脈の理解 4 高血圧 1) 血圧とは何か? 2) 血圧の正しい測り方 3) 高血圧の治療はなぜ必要か 5 心不全 右心不全、左心不全、両心不全の病態、基礎疾患の理解 6 血管疾患 閉塞性動脈硬化症、大動脈瘤、肺梗塞の理解 7 過去の国家試験問題の解説			講義	
2回目					
3回目					
4回目					
5回目					
6回目					
7回目					
8回目					
9回目					
10回目					
11回目					
12回目					
13回目					
14回目					
15回目					
16回目	試験				
評価方法 筆記試験によるが授業態度も加味する					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[3]循環器 医学書院					
参考文献					

科目名 消化器の病態		講義担当 小松 眞史 中根 邦夫 辻 剛俊 津田 聡子 菅原 佳恵		所属 市立秋田総合病院	
履修時期	1年後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標 消化器機能障害の特徴と治療・検査について理解する。					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	1 消化器系の機能障害の基礎 1)栄養の摂取・吸収の障害 2)消化器機能の障害 2 消化器系の臨床 1) 特有な症状:嚥下困難・食欲不振・胸やけ・嘔吐 ・下血・黄疸 2)特有な検査:造影・内視鏡・生検・超音波 3)特有な治療・処置:薬物療法・食事療法・手術療法 ・放射線療法 3 消化器疾患の症状・検査 1)上部消化器疾患 食道癌・胃癌 2)下部消化器疾患 イレウス・大腸癌・直腸癌 3)胆嚢 胆嚢炎・胆嚢癌 4)肝臓 肝臓炎・肝臓癌 5)膵臓 膵炎・膵癌			講義	
2回目					
3回目					
4回目					
5回目					
6回目					
7回目					
8回目					
9回目					
10回目					
11回目					
12回目					
13回目					
14回目					
15回目					
16回目	試験				
評価方法 筆記試験					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [5] 消化器 医学書院					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
腎・泌尿器の病態論		大谷 浩 石田 俊哉		雄勝中央病院 市立秋田総合病院	
履修時期	1年後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
人体の構造、人体の機能、循環器の病態を理解しておくこと					
科目のねらい・授業目標					
排泄機能障害の特徴と治療・検査について理解する。					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	I 腎 (15時間) 1)腎の解剖 2)腎の生理・働き 3)腎機能検査および腎機能障害時の症状尿・血液・画像検査など 4)腎障害時の特有な疾患 ①急性腎不全 ②慢性糸球体腎炎 ③慢性腎不全 5)治療 ①食事療法 ②薬物療法 ③透析療法 II 泌尿器・生殖器 (15時間) 特有な疾患のポイントを国家試験などから絞り込んで講義する。 1. 泌尿器機能障害の病態生理 1)暴行腫瘍・膀胱癌・腎盂尿管癌・腎癌 2)尿路の疾患・失禁・神経因性膀胱 3)結石 2. 生殖器機能障害の病態生理 1)前立腺肥大症・前立腺癌・精巣腫瘍 2)性器の腫瘍・不妊症 3. 症 状 ・勃起障害・生殖器異常 4. 検 査 ・生検・外内診 5. 治療・処置 ・化学療法・放射線療法・ホルモン療法・手術療法			講義	
2回目					
3回目					
4回目					
5回目					
6回目					
7回目					
8回目					
9回目					
10回目					
11回目					
12回目					
13回目					
14回目					
15回目					
16回目					
評価方法 筆記試験					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [8] 腎・泌尿器 医学書院					
参考文献					

科目名 内分泌・代謝・造血の病態論		講義担当 三浦 岳史 山口 昭彦		所属 市立秋田総合病院 前職 秋田郵政健康管理センター	
履修時期	2年前期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標 内部環境調節機能障害の特徴と治療・検査について理解する。					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	内分泌・代謝（20時間） 1 内分泌器官の基礎 2 代謝器官の基礎 3 体液調節の障害と治療・検査 4 自律神経機能の障害と治療・検査 5 内分泌機能の障害と治療・検査 甲状腺疾患・甲状腺クリーゼ 1)症 状 頻脈・発汗・体重減少・全身倦怠感 2)検 査 画像診断 3)治 療 薬物療法・食事療法・放射線療法・手術療法 6 代謝機能の障害と治療・検査 1)糖尿病(病態・合併症・治療) 2)脂質異常症 3)肥満とメタボリックシンドローム 4)尿酸値代謝異常 造血（10時間） 1 造血のしくみと疾患のメカニズム及び治療を学ぶ。 1)造血のしくみ 2)血液疾患のメカニズム 3)血液疾患の治療 2 血液疾患の特徴と検査・治療について理解する。 1)主要症状 貧血・出血傾向・脾腫・リンパ節腫脹 2)検 査 末梢血検査・マルク・リンパ節生検 3)診断・治療 化学療法・造血幹細胞移植			講義	
2回目					
3回目					
4回目					
5回目					
6回目					
7回目					
8回目					
9回目					
10回目					
11回目					
12回目					
13回目					
14回目					
15回目					
16回目	試験				
評価方法 筆記試験					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [6] 内分泌・代謝 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [4] 血液・造血器 医学書院					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
脳神経の病態論		猪股 拓海		市立秋田総合病院	
履修時期	2年前期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標					
脳神経機能障害の特徴と治療・検査について理解する。					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	<p>能・神経・筋肉疾患のうち代表的な疾患につき、テキストを中心にプリントや視聴覚機器を用いて講義する。</p> <p>1. 症状とその病態生理 1)意識障害・高次脳機能障害・運動機能障害・言語障害</p> <p>2. 検査と治療 1)神経学的検査 2)画像 3)手術療法 4)薬物療法 5)リハビリテーション療法 6)化学療法・放射線療法</p> <p>3. 疾患の理解 1)脳血管障害 2)脳変性疾患 3)神経筋疾患 4)脳腫瘍 5)膠原病</p>			講義	
2回目					
3回目					
4回目					
5回目					
6回目					
7回目					
8回目	試験				
評価方法					
筆記試験					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [7] 脳・神経 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[11] アレルギー・膠原病・感染症 医学書院					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
運動器の病態論		畠山 雄二		大曲厚生医療センター	
履修時期	2年前期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標 運動機能障害の特徴と治療・検査について理解する。 1. 活動や行動を妨げる機能の障害					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	1 整形外科の特徴的な疾患の理解			講義	
2回目	2 診断・治療・検査・処置の理解 1) 骨折・脊髄損傷・腰椎椎間板ヘルニア・骨腫瘍・関節リュウマチ				
3回目	3 整形外科の特徴的な症状と病態生理 1) 形態異常・循環障害・麻痺・異常歩行・拘縮・疼痛・神経障害				
4回目	4 検査:画像				
5回目	5 治療処置:保存療法・理学療法・手術療法				
6回目	6 活動や行動に支障がある障害 1) 姿勢・運動にかかわる骨、関節・筋肉の疾患 2) 運動機能障害による残存機能とリハビリテーション 3) 活動や行動が制限されることにより発生する疾患				
7回目					
8回目	試験				
評価方法					
筆記試験					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [10] 運動器 医学書院					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
生殖器の病態論		軽部 裕子		市立秋田総合病院	
履修時期	2年前・後期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標 生殖機能障害の特徴と治療・検査について理解する。 1. 女性生殖器をつかさどる器官の機能の障害 2. 正常な妊娠・分娩・産褥の経過と起こりやすい異常について理解する。					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	女性生殖器の構造、機能			講義	
2回目	女性生殖器疾患の理解			講義	
3回目	女性生殖器疾患の理解			講義	
4回目	出生前からのリプロダクティブヘルス			講義	
5回目	妊娠期 身体的特性			講義	
6回目	妊婦と胎児アセスメント、疾患			講義	
7回目	分娩期・産褥期特性、疾患			講義	
8回目	試験・まとめ				
評価方法					
筆記試験(10割)					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [9] 女性生殖器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 母性看護学 [2] 母性看護学各論 医学書院					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
小児の病態論		武田 修		市立秋田総合病院	
履修時期	2年前期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標					
小児の特徴を理解し、小児疾患各論を一通り学習する					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	「遺伝子・染色体の異常と形態異常」 「新生児の特徴と疾患」			スライドによる 講義	
2回目	「消化器機能障害」 「呼吸器機能障害」			〃	
3回目	「循環器機能障害」 「アレルギー性疾患」			〃	
4回目	「造血機能障害・癌」 「代謝・内分泌機能障害」			〃	
5回目	「腎・泌尿器機能障害」 「免疫疾患・膠原病」			〃	
6回目	「脳神経機能障害」 「神経領域の疾患」			〃	
7回目	「感染症」			〃	
8回目	試験			筆記	
評価方法					
筆記試験					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論 医学書院					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
精神の病態論		水俣 健一 内藤 信吾 小松 宗央 堀井悠一郎 高橋 将太		市立秋田総合病院	
履修時期	2年前期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標					
精神の健康障害の特徴と治療・検査について理解する。					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	精神の機能と障害 (意識・知識など)			講義	水俣健一
2回目	精神の機能と障害 (知覚・思考・感情・意欲など)			講義	水俣健一
3回目	心因性精神障害 神経症性障害・心因反応			講義	小松宗央
4回目	内因性精神障害① 統合失調症			講義	内藤信吾
5回目	内因性精神障害② 気分障害			講義	内藤信吾
6回目	外因性精神障害① 器質性・症候性精神障害			講義	内藤信吾
7回目	外因性精神障害② 物質関連障害・睡眠-覚醒障害			講義	小松宗央
8回目	精神科治療論① 身体療法(薬物・電気)			講義	内藤信吾
9回目	児童・青年期精神医学 (パーソナリティ障害・発達障害を含む)			講義	水俣健一
10回目	精神科治療論② 精神療法・社会療法			講義	水俣健一
11回目	心理検査と心理療法			講義	堀井悠一郎
12回目	ケースワーカー 精神保健福祉法の実際			講義	高橋将太
13回目	市立秋田総合病院の臨床			講義	内藤信吾
14回目 15回目	映画から学ぶ			ビデオ レポート	水俣健一
16回目	試験				
評価方法					
筆記試験					
使用するテキスト					
ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践 メディカ出版					
参考文献					

科目名	講義担当			所属	
薬理学	時田 圭子 門田 祥吾	梅田 慎也 今野 正樹		市立秋田総合病院	
	藤原 洋之			男鹿みなと市民病院	
履修時期	2年後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標					
基本的薬物の薬理作用とその適応・有害作用など薬物療法に関する基礎知識を学び、薬物療法に重要な看護師の役割を理解する。					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	1. 薬理学総論 (1)薬物療法、薬理作用、薬物の作用点・投与経路 (2)薬物の吸収・分布・代謝・排泄・薬効に影響する因子 (3)薬物の有害作用・相互作用・薬の管理 2. 薬理学各論 (1)感染症治療薬 (2)抗がん薬 (3)免疫治療薬 (4)抗アレルギー薬・抗炎症薬 (5)末梢での神経活動に作用する薬物 (6)中枢神経系に作用する薬物 (7)循環器系に作用する薬物 (8)呼吸器・消化器・生殖器・泌尿器系に作用する薬物 (9)物質代謝に作用する薬物 (10)皮膚科用薬・眼科用薬 (11)救急の際に使用される薬物 (12)漢方薬 (13)消毒薬 3. その他 (1)輸液製剤・輸血剤 (2)看護業務に必要な薬の知識			講義	
2回目					
3回目					
4回目					
5回目					
6回目					
7回目					
8回目					
9回目					
10回目					
11回目					
12回目					
13回目					
14回目					
15回目					
16回目	試験				
評価方法					
筆記試験					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [3] 薬理学 医学書院					
参考文献					
今日の治療薬「南江堂」(臨地実習に向けて用意しておく必要がある)					

科目名		講義担当		所属	
健康科学		伊藤 善信		秋田市保健所	
履修時期	1年前期	単位数	1単位	時間数	15時間
<p>受講上の留意点</p> <p>現代人の健康は、様々な人々の職業活動の上に成り立っているという認識を育て、さらには現代人の健康に科学の果たしている役割を理解してもらう。</p>					
<p>科目のねらい・授業目標</p> <p>健康に生活することの大切さや健康保持・増進及び身体環境の基礎を理解する。</p>					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	人の心身と健康を知る～その1～			講義	
2回目	人の心身と健康を知る～その2～			講義	
3回目	健康の基礎～その1～			講義	
4回目	健康の基礎～その2～			講義	
5回目	健康の基礎～その3～			講義	
6回目	社会と健康			講義	
7回目	健康観と健康に関する社会の仕組み			講義	
8回目	試験				
<p>評価方法</p> <p>筆記試験、出席状況</p>					
<p>使用するテキスト</p> <p>健康科学 改訂第2版 南江堂</p>					
<p>参考文献</p> <p>① イラスト 健康管理概論 第5版 東京教学社 ② 国民衛生の動向 Vol.69 No.9 2022/2023 厚生労働統計協会</p>					

科目名 公衆衛生学		講義担当 添野 武彦		所属 本荘第一病院	
履修時期	1年後期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標 組織的保健活動の概要と意義について理解する。 1. 公衆衛生の基礎 2. 公衆衛生と地域保健 3. 公衆衛生と環境保健					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	公衆衛生学概論 疫学			講義	
2回目	保健医療論 人口保健統計				
3回目	母子保健 成人保健				
4回目	老人保健 精神保健 学校保健				
5回目	産業保健 環境保健 など				
6回目	地域医療、保健福祉計画、感染症、環境衛生対策 (ディスカッション)				
7回目					
8回目	試験・まとめ				
評価方法 中間・期末に筆記試験					
使用するテキスト わかりやすい公衆衛生学 NOUVELLE HIROKAWA					
参考文献					

科目名 社会福祉		講義担当 米谷 恭一 伊藤 梅香		所属 前職 秋田中央福祉会 市立秋田総合病院	
履修時期	3年後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点 新聞やマスメディアに関心を払い、人と社会を取り巻く現代社会の問題と課題、支え手の役割を考えてください。					
科目のねらい・授業目標 社会保障と社会福祉の概念と課題と課題を学び、社会福祉制度とサービスを理解する。					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	社会保障制度～目的・機能・体系			講義	
2回目	社会保障制度～法制度・財政・組織			講義	
3回目	現代社会の変化			講義	
4回目	社会保障の動向			講義	
5回目	介護保障制度～創設の背景と概要			講義と質疑	
6回目	介護保障制度～保健給付と課題			講義と質疑	
7回目	所得保障の概要			講義	
8回目	公的扶助論			講義	
9回目	社会福祉の分野～障害者福祉制度			講義と質疑	
10回目	社会福祉の分野～児童家庭福祉と少子化			講義と質疑	
11回目	社会福祉の歴史			講義	
12回目	社会福祉と医療保障			講義・グループワーク	
13回目	介護保障制度と医療			〃	
14回目	社会保障制度／公的扶助 福祉サービスと社会福祉の歴史			〃	
15回目	社会福祉実践と医療・看護			〃	
16回目	試験				
評価方法 ① 授業への望む姿勢と振り返りの実施 ② 修了試験					
使用するテキスト 「社会保障・社会福祉～健康支援と社会保障制度3」～(医学書院)					
参考文献 新聞・ネットニュース					

科目名 チーム医療論		講義担当 成 田 雪 美		所属 医療法人運忠会 土崎病院	
履修時期	3年前期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標 ・チーム医療の概念を学び、多くの専門職種との連携や協働について理解する ・患者中心の統合的で良質な医療の提供について学ぶ					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	チーム医療とは			講義・グループワーク	
2回目	専門職とチーム医療			〃	
3回目	チーム医療における看護職の役割			〃	
4回目	チーム医療と倫理			〃	
5回目	チーム医療とコミュニケーション			〃	
6回目	チーム医療の実践(医療安全・感染管理より)			〃	
7回目	チーム医療の実際(様々な場面)			〃	
8回目	試験			〃	
評価方法 授業への参加と態度、レポート(テスト)					
使用するテキスト 実践チーム医療論 水本清久他 編著 医歯薬出版株式会社 チーム医療とは何か 細田満和子 著 日本看護協会出版会					
参考文献					

科目名	講義担当		所属		
関係法規 I	萩山日出樹		前職 学校法人コア学園 秋田リハビリテーション学院		
履修時期	3 年後期	単位数	1 単位	時間数	15 時間
受講上の留意点 法規は難解なイメージを持ちやすいと思いますが、一方で医療、福祉、保健など様々な領域で従事する看護師にとって、法律上のルールを把握することは適正な仕事の範疇を逸脱することなく従事するために重要であることも理解しやすいところだと思います。 要点を抑えて学習していきましょう。					
科目のねらい・授業目標 法治国家である日本において、看護の法律上の身分や関連法を把握し、看護業務に活かすことを履修のねらいとなる。 各授業の終了時に実施する設問を把握し、説明できることを授業目標とする。					
授業回数	学習内容と成果		方法	備考	
1 回目	法の理念と国法の体系化、日本国民の権利と義務		講義		
2 回目	日本国憲法、衛生法の中の医事法、そして医療法、保助看法		講義		
3 回目	業務独占と医療過誤		講義		
4 回目	民事・刑事・行政責任と医療法		講義		
5 回目	予防衛生法: 感染症の予防 薬務法: 薬事一般に関する法律		講義		
6 回目	福祉法: 社会福祉法、生活保護法、児童福祉法、老人福祉法、障害者基本法		講義		
7 回目	労働法: 労働基準法、労働安全衛生法、雇用保険法		講義		
8 回目	試験		筆記		
評価方法 出席回数(最低 7 回中 3/5 の参加必要)および参加態度 30%、試験 70%で 6 割以上にて単位取得となります。					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保険制度[4] 看護関係法令 医学書院					
参考文献 特になし。					

科目名 関係法規Ⅱ		講義担当 菊地 富貴子		所属 公益社団法人秋田県看護協会 訪問看護ステーションあきた	
履修時期	3年後期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標 看護職の職務の基盤となる法規および諸制度について理解し、臨床において正しく職務を遂行するための根拠や判断基準としてそれらを習得する。					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	看護法について理解する			講義	
2回目	看護法について理解する			講義	
3回目	保健衛生法について理解する			講義	
4回目	保健衛生法について理解する			講義	
5回目	社会保険法について理解する			講義	
6回目	社会保険法、福祉法について理解する			講義	
7回目	福祉法について理解する			講義	
8回目	試験 まとめ				
評価方法 全課程の講義終了後の試験と、受講態度により評価					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保険制度[4] 看護関係法令 医学書院					
参考文献					

專門分野

科目名 看護学概論		講義担当 佐々木 真紀子 長谷部 真木子		所属 前 秋田大学大学院医学系研究科 秋田大学大学院医学系研究科	
履修時期	1年前期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点 看護学を学ぶ者が最初に学習する科目である。「看護とはなにか」という問いを念頭に置き授業に臨むこと。					
科目のねらい・授業目標 1. 看護の本質・理論を学び看護の基本概念が理解できる 2. 看護の対象である人間を全人的(身体的・精神的・心理的・社会的側面の統合体)に理解できる 3. 看護の機能と役割及び看護活動を理解できる 4. 保健・医療・福祉における看護の役割について理解できる					
授業回数	学習内容と成果	到達目標		方法	備考
1回目	I. 看護とは何か	1) F.ナイチンゲール「看護覚え書き」を抄読し、看護と人間・健康・環境との関係を考えることができる 2) 看護の定義と基本概念、機能、役割について説明できる		講義	課題 レポート ①
2回目					
3回目					
4回目	II. 看護の対象の理解	1) 看護の対象としての個人・家族・集団の特徴を説明できる 2) 人の成長発達を生理的・心理・社会的側面から説明できる		講義	課題 レポート ② 小テスト
5回目					
6回目					
7回目	III. 看護の歴史の変遷	1) 古代から現代にいたるまで、西洋・日本の歴史から看護に影響を与えた主要な事項を説明できる 2) 専門職としての看護の発展の基礎となった歴史的事項を説明できる		講義	
8回目					
9回目					
10回目	IV. 看護理論から学ぶ 看護の機能と役割	ヴァージニア・ヘンダーソン「看護の基本となるもの」抄読し、 1) 看護独自の機能とは何かを説明できる 2) 看護の対象の特徴と看護がなすべきことは何かを説明できる		Group Work・ 発表	課題 レポート ③
11回目					
12回目					
13回目	V. 看護の提供の仕組みとチーム医療	1) 看護の提供に関わる制度・看護管理と看護提供方法を説明できる 2) 看護職の人材育成(看護教育)の概要を説明できる 3) チーム医療と看護職の役割の概要を説明できる		講義	
14回目					
15回目					
16回目	最終試験				
評価方法 筆記試験(小テスト30点・最終試験100点・課題レポート30点:計160点):90%、 受講態度10%					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 I 看護学概論 医学書院 フローレンス・ナイチンゲール著, 湯楨ます他訳:看護覚え書-看護であること 看護でないこと-現代社 ヴァージニア・ヘンダーソン著, 湯楨ます・小玉香津子訳:看護の基本となるもの 日本看護協会出版会					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
看護倫理		石川 千夏 京野 順子		市立秋田総合病院 秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	2年前期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点 倫理学で学んだ倫理の原則について学習してくる					
科目のねらい・授業目標 1. 看護の倫理が意味することと倫理規定について理解できる 2. 倫理の原則について理解できる 3. 看護における倫理の重要性を説明できる					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目 2回目	倫理の基本的な考え方について理解できる。 ・倫理とは何か ・倫理理論 ・他者理解と対話のための理論			講義 グループワーク 発表	
3回目	看護倫理の基礎的な考え方について理解できる。 ・看護理論とは何か ・看護倫理の歴史的推移 ・看護の倫理原則 ・看護倫理に関係する重要な言葉 (アドボカシー、協力、ケアリング、尊厳)			講義	
4回目	保健・医療・福祉の現状と課題について理解できる。 看護職の倫理綱領、看護師の役割と責務 価値観			講義 グループワーク	
5回目	倫理原則について理解できる。 Jonsenらの4分割表 看護職が臨床で直面することの多い臨床倫理問題 ・患者の自己決定支援に関すること SDM(shared decision making)			講義 グループワーク	
6回目	尊厳について理解できる。 看護職が臨床で直面することの多い臨床倫理問題 ・終末期医療に関すること			講義 グループワーク	
7回目	看護研究の倫理について理解できる。 ・看護職の研究倫理 ・研究にける倫理的問題 ・倫理的配慮の要点 ・看護研究に必要な倫理的配慮			講義	
8回目	試験				
評価方法 筆記試験、グループワーク参加態度					
使用するテキスト 系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院					
参考文献 小西恵美子編集:看護倫理 南江堂					

科目名		講義担当		所属	
看護研究概説		京野 順子		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	3年後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点 看護研究は難しそうと苦手意識を持たず、できるだけ肩の力を抜いて、まずは1つ1つのステップを進めていきましょう。					
科目のねらい・授業目標 看護研究の意義・目的、方法、進め方について学び、研究計画書を作成できる。 看護職の研究取組を知り、研究の意識や態度を高める。					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目 2回目	1. 看護研究の意義・目的 2. 研究の意義と方法 1) 質的研究、量的研究 2) 調査研究、事例研究、実験研究、文献研究			講義	
3回目 4回目	1. 研究のプロセス 2) 研究計画の立案 1) テーマの絞り方 3) データの収集法 4) データの分析方法 6) 研究結果の報告 5) 結果とその解釈			講義	
5回目 6回目	1. 文献検討の意義と方法 2. 文献検索をおこなうための5つのポイント 1) 文献検索の準備 2) 研究内容のキーワード特定 3) 検索誌の特色と検索方法 4) 文献リストの作成 5) 文献検討と文献カード 3. 文献検索と文献入手方法演習			講義 演習	
7回目	1. 研究と倫理 1) 基本的人権の擁護 2) 人権擁護のための3つの原則			講義	
8回目	1. 研究計画書作成の意義 2. 研究計画書の内容 1) 研究テーマ 2) 研究の動機・必要性 3) 研究目的 4) 用語の定義 5) 研究方法 6) 倫理的配慮 7) 研究日程			講義	
9回目 10回目	1. 研究論文の批評(クリティーク) 2. 研究計画書作成			講義 グループワーク	
11回目 12回目 13回目	1. 看護学会参加			聴講	レポート提出
14回目 15回目	1. 研究計画書の発表			発表	研究計画書及び発表資料の提出
16回目	試験				
評価方法 受講態度 筆記試験 研究計画書の作成及び発表 課題レポート					
使用するテキスト 前田樹海他:APAに学ぶ看護系論文執筆のルール, 医学書院					
参考文献 講義に関係のあるものを随時紹介する					

科目名		講義担当		所属	
フィジカルアセスメント		高橋 久美子		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1年前・後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点 1. 演習・技術試験に向け、自己学習時間を確保し技術練習をして臨むことが重要。 2. 実習室の準備・片付けは、注意事項に沿って確実にすること。					
科目のねらい・授業目標 1. ヘルスアセスメントの意義と目的を理解し、必要とされる技術を習得できる 2. 全体の概観、バイタルサインの観察、計測、系統別アセスメント、心理・社会状態のアセスメントについて理解できる 3. ヘルスアセスメントによって得られた結果を、実際のケアに結びつけていく態度を養う					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	1. ヘルスアセスメントの意義と目的を理解できる 2. ヘルスアセスメントに必要な技術を理解できる			講義	
2回目	1. フィジカルアセスメントの基本技術を理解できる 2. フィジカルイグザミネーションについて理解できる			講義	
3回目	1. バイタルサインの観察に必要な基礎知識を理解できる 2. 計測の意味と定義を理解できる 3. 血圧測定 of 技術を習得できる			講義 グループワーク	
4回目	バイタルサイン測定 of 技術を習得できる			演習	
5回目					
6回目	バイタルサイン of 基本技術を正しく実施する			技術チェック	
7回目					
8回目	ヘルスアセスメント・フィジカルアセスメント・フィジカルイグザミネーションについて振り返りを行い、理解を深めることができる			講義	
9回目	各器官・系統別のフィジカルアセスメント of 基本技術を理解できる 1)呼吸器系 2)循環器・血管系			講義 シミュレーション 学習	課題：頭部・頸部（リンパ節 甲状腺）
10回目	3)乳房・リンパ系 4)腹部・消化器系			講義	課題：眼・耳・鼻・口
11回目	5)筋・骨格系 6)神経系 7)外皮系			講義	課題：直腸・肛門・生殖器
12回目	心理・社会状態 of アセスメントに関する必要な項目とその内容を理解できる			講義	
13回目	フィジカルアセスメント of 方法を理解できる			グループワーク	
14回目	フィジカルアセスメント of 技術を習得できる			演習	
15回目					
16回目	試験				
評価方法 筆記試験 課題プリント・アセスメント記録用紙					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2]基礎看護技術 I 医学書院 看護がみえる フィジカルアセスメント vol.3 メディックメディア 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第3版 医学書院(電子サブテキスト)					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
基本的技術 I		中川 まゆ子		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1 年前期	単位数	1 単位	時間数	15 時間
受講上の留意点					
1. 事前課題に必ず取り組み講義にのぞむこと 2. 看護技術の動画を視聴してのぞむこと					
科目のねらい・授業目標					
1. 看護技術の特徴について理解できる 2. 看護におけるコミュニケーションの意義と方法を理解できる 3. 感染予防の基礎知識が理解できる					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1 回目	1. 看護技術の特徴と範囲を理解できる 2. 看護技術の実践のための要素を理解できる			講義	
2 回目	1. 看護におけるコミュニケーションの意義を理解する 2. 看護における人間関係成立のためのコミュニケーション技法を理解する			講義	
3 回目					
4 回目	感染予防の基礎知識を理解する			講義	
5 回目					
6 回目	感染予防の基本技術を習得する			演習	
7 回目					
8 回目	試験 まとめ				
評価方法					
筆記試験					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2]基礎看護技術 I 医学書院 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第 3 版 医学書院(電子サブテキスト)					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
基本的技術Ⅱ		中川 まゆ子		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1年前期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点					
1. 事前課題に必ず取り組み講義にのぞむこと 2. 看護技術の動画を視聴してのぞむこと					
科目のねらい・授業目標					
1. 療養生活の環境を構成する要素を理解し、病室・病床の環境のアセスメントと調整について理解できる 2. ベッド周囲と病床の環境整備、ベッドメイキング、リネン交換の技術を習得できる 3. 姿勢の基礎知識、ボディメカニクスの原理を理解できる 4. さまざまな体位とその目的を理解し、体位変換の援助技術を習得できる 5. 車椅子・ストレッチャーについて理解し、移乗の援助と移送の方法を習得できる 6. 睡眠と睡眠障害について理解し、睡眠に障害を持つ患者への具体的な援助を理解できる					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	1. 療養生活の環境を理解できる 2. 病室の環境のアセスメントと調整について理解できる			講義	
2回目	1. ベッド周囲の環境整備を理解できる 2. 病床を整えることについて理解できる			講義	
3回目	ベッドメイキングの技術を習得できる			演習	
4回目					
5回目	基本的活動の基礎知識と睡眠・休息の援助を理解できる。 1. 基本的活動の援助 2. 睡眠・休息の援助 3. 体位保持(ポジショニング)			講義	
6回目	体位、移動(体位変換・歩行・移乗・移送)の技術を習得できる			演習	
7回目	ベッドメイキングを適切に実施できる			技術チェック	
8回目	試験 まとめ				
評価方法					
筆記試験					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第3版 医学書院(電子サブテキスト)					
参考文献					
看護がみえる vol.1 基礎看護技術 メディックメディア ベッドまわりの環境学 医学書院					

科目名	講義担当		所属		
看護過程	藤本 具子		秋田市医師会立秋田看護学校		
履修時期	1年後期	単位数	1単位	時間数	15時間
<p>受講上の留意点</p> <p>看護過程の単位を修得することで基礎看護学実習Ⅲの受講可能となる。 看護過程の展開が実施できるように個人ワークやグループワークを積極的に参加すること。</p> <p>科目のねらい・授業目標</p> <p>1. 看護過程の意義と一連のプロセスを理解できる。 2. 事例患者を用いて看護過程の展開が理解できる。</p>					
授業回数	学習内容と成果		方法	備考	
1回目 2回目	看護過程の意義や目的が理解できる。 1) 看護過程とは 2) 看護記録とは 3) クリティカルシンキングとは 4) ゴードンの枠組み 5) NANDA—1 看護診断		講義		
3回目 4回目	情報収集から情報分析方法を理解できる。 1) 全体像の把握 2) 情報収集から分析 3) 関連図 4) 看護上の問題点の明確化 5) 看護目標、立案計画、実践結果、評価		講義 グループワーク		
5回目 6回目 7回目 8回目 9回目	対象事例を用いて看護過程の段階を理解する。 1) 情報の整理、分析 2) 関連図 3) 看護上の問題点の明確化 4) 看護目標、計画立案、実践結果、評価		グループワーク		
10回目 11回目	看護計画についてディスカッションを行い、看護過程の理解を深める。 1) 紙上事例をグループ毎に発表		グループ発表		
12回目 13回目 14回目 15回目	紙上事例を個人ワークを行い看護展開できる		個人ワーク		
16回目	試験				
<p>評価方法</p> <p>筆記試験 課題レポート</p>					
<p>使用するテキスト</p> <p>系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ 医学書院 NANDA—Ⅰ看護診断 定義と分類 医学書院 病期・発達段階の視点でみる 疾患別看護過程 照林社</p>					
<p>参考文献</p> <p>看護がみえる vol.4 看護過程の展開 MEDIC MEDIA ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 NOUVELLE HIROKAWA</p>					

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名		講義担当		所属	
日常生活の援助技術Ⅰ		皆川 千年		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1年前期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点					
1. 事前課題に必ず取り組み講義にのぞむこと 2. 看護技術の動画を視聴してのぞむこと					
科目のねらい・授業目標					
1. 皮膚・粘膜の構造と機能を知り、清潔援助の効果と全身への影響を理解できる 2. 清潔援助の方法選択の視点を理解し、それぞれの清潔援助技術を習得できる 3. 病床での衣生活の基礎知識を理解し、寝衣交換の援助技術を習得できる					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	1.清潔の援助の基礎知識を理解できる 2.病床での衣生活の援助の基礎知識を理解できる 3.身体ケアを通じてもたらされる安楽			講義	
2回目	全身清拭・寝衣交換の援助技術を理解できる			講義	
3回目	全身清拭・寝衣交換の援助技術を習得できる			演習	
4回目	洗髪・手足浴の援助技術を理解できる			講義	
5回目	洗髪の援助技術を習得できる			演習	
6回目	手浴・足浴の援助技術を習得できる			演習	
7回目	全身清拭・寝衣交換の援助技術を適切に実施できる			技術 チェック	
8回目	試験 まとめ				
評価方法					
筆記試験					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第3版 医学書院(電子サブテキスト)					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
日常生活の援助技術Ⅱ		薄田 悦子		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1年前期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
1. 事前課題に必ず取り組み講義にのぞむこと 2. 看護技術の動画を視聴してのぞむこと					
科目のねらい・授業目標					
1. 食事援助の基礎知識が理解できる 2. 食事摂取の援助技術を習得できる 3. 排泄援助の基礎知識が理解できる 4. 排泄の援助技術を習得できる					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	1. 食事援助の基礎知識を理解できる			講義	
2回目	2. 食事摂取の基礎知識について援助の基礎知識を理解できる			講義	
3回目	3. 摂食・嚥下訓練について援助の基礎知識を理解できる			講義	
4回目	4. 非経口的栄養摂取の援助についての基礎知識を理解できる			講義	
5回目					
6回目	食事摂取の介助技術および口腔ケアの技術を習得できる			演習	
7回目					
8回目	1. 自然排尿および自然排便の基礎知識を理解できる			講義	
9回目	2. 排泄の援助についての基礎知識を理解できる			講義	
10回目	1. 導尿について援助の基礎知識を理解できる 2. 排便を促す援助の基礎知識を理解できる 3. 浣腸について援助の基礎知識を理解できる 4. ストーマケアについて援助の基礎知識を理解できる			講義	
11回目					
12回目	陰部洗浄・オムツ交換の援助技術を習得できる			演習	
13回目					
14回目	浣腸の援助技術を習得できる			演習	
15回目	一時的導尿の援助技術を習得できる			演習	
16回目	試験				
評価方法					
筆記試験					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第3版 医学書院(電子サブテキスト)					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
診療の補助技術Ⅰ		高橋 文子		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1年後期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点					
1. 事前課題に必ず取り組み講義にのぞむこと 2. 看護技術の動画を視聴してのぞむこと					
科目のねらい・授業目標					
患者が安全・安楽に診療を受けるために必要な診療補助技術について理解できる					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	診察・検査・処置のおける技術 1. 診察の介助 2. 検査・処置の介助			講義	
2回目				講義	
3回目	呼吸循環を整える技術を理解できる 1. 酸素療法 2. 排痰ケア 3. 胸腔ドレナージ 4. 吸入 5. 人工呼吸療法 6. 体温管理の技術 7. 末梢循環促進ケア 8. 罨法			講義	
4回目				講義	
5回目	創傷管理技術を理解できる 1. 創傷管理の基礎知識 2. 創傷処置 3. 褥瘡予防			講義	
6回目				講義・演習	
7回目	口腔内・気管内吸引の看護技術を習得できる			演習	
8回目	試験 まとめ				
評価方法					
筆記試験					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第3版 医学書院(電子サブテキスト)					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
診療の補助技術Ⅱ		高橋久美子		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	2年後期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点					
1. 事前課題に必ず取り組み講義にのぞむこと 2. 看護技術の動画を視聴してのぞむこと					
科目のねらい・授業目標					
診療補助技術の意義と方法を理解し、根拠に基づきながら実践できる技術を習得する					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	1. 与薬の基礎知識を理解できる 2. 与薬の技術の基礎知識を理解できる 3. 輸血の取り扱い方法と援助方法を理解できる			講義	
2回目					
3回目					
4回目	筋肉注射の技術を習得できる			演習	
5回目					
6回目	点滴静脈内注射の技術を習得できる			演習	
7回目					
8回目	試験 まとめ				
評価方法					
筆記試験					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第3版 医学書院(電子サブテキスト)					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
秋田を知る		新堀 道生 丸谷 仁美 藤中 由美 齊藤 知佳子 中川 まゆ子		秋田県立博物館 秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1年前期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標					
1.秋田の歴史、特性を理解する。 2.秋田で暮らす人々の生活環境(食文化・居住文化・芸術文化・自然)を理解する。					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	秋田の歴史について理解する			講義	
2回目	秋田の食文化について理解する				
3回目	秋田の自然環境について理解する				
4回目	秋田の先人について理解する				
5回目	秋田市の芸術・食文化・環境・住環境について調べ、秋田市の生活環境を理解する。			フィールドワーク	フィールドワークに関しては、別紙資料配布
6回目	1・2時限目 各グループにわかれフィールドワーク				
7回目	3・4時限目 発表原稿のまとめ・発表				
8回目					
評価方法					
課題レポート					
使用するテキスト					
なし					
参考文献					
なし					

科目名		講義担当		所属	
暮らしの理解		中川 まゆ子		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1年前期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点					
・調べ学習を中心としたグループワークを実施する。					
科目のねらい・授業目標					
地域で暮らしている人々の暮らす環境を理解できる。					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	生活している人々のライフステージと発達課題を理解できる。 1)人生 2)家族・家庭 3)生涯発達			講義	
2回目	高齢者の現状と課題を理解できる。 1)高齢者の現状と課題 2)身体的特徴 3)高齢社会				
3回目	私たちの生活と福祉を理解できる。 1)福祉のとらえ方 2)社会保障 3)共生				
4回目	食生活の課題について理解できる。 1)食べるとは 2)栄養と食品、栄養バランス			講義 グループワーク	
5回目	3)安全と衛生				
6回目	衣・住生活の役割を理解できる。 1)着る 2)衣生活と環境			講義	
7回目	経済の役割を理解できる。 1)家庭の経済生活 2)消費者の権利と責任				
8回目	試験・まとめ				
評価方法					
課題レポート					
使用するテキスト					
なし					
参考文献					
講義に関係のあるものを随時紹介する					

科目名 地域・在宅看護概論		講義担当 佐藤 聡美 藤本 具子		所属 前職中通高等看護学院 秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1 年前期	単位数	1 単位	時間数	15 時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標 多様性のある暮らしの中で、在宅看護の役割と必要性を理解できる。 地域・在宅看護の対象である家族を理解できる。					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1 回目 2 回目	<p>地域・在宅看護の概念が理解できる。 ＝第 1 章＝</p> <p>1)地域・在宅看護の基盤となる考え方 2)地域・在宅看護に求められる役割</p> <p>暮らしを基盤とした地域を理解できる。 ＝第 2 章＝</p> <p>1)地域の多様性 2)システム理論とシステム思考 3)地域包括システム</p>			講義	
3 回目 4 回目	<p>地域・在宅看護の対象者を理解できる。 ＝第 3 章＝</p> <p>1)ライフステージによる多様性 2)家族の特徴</p> <p>暮らしを支える看護が理解できる。＝第 4 章＝</p> <p>1)暮らしの環境を整える看護 2)看護の提供方法 3)ライフステージに応じた看護</p>			講義	
5 回目	<p>地域・在宅看護実践の場と多職種連携を理解できる。</p> <p>1) おもな地域・在宅看護の実践の場 2) 地域・在宅看護における多職種連携</p>			講義	
6・7 回目	<p>事例を通して、家族看護が理解できる。 1)エコマップの作成</p>			講義 グループワーク	
8 回目	試験				
評価方法					
筆記試験・課題レポート					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1 【医学書院】					
参考文献					

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名 暮らしと環境		講義担当 八代 雄市 藤本 具子		所属 秋田聖徳会多機能型支援センター第二聖和 秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1年前期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標 1.地域・在宅看護に関わる制度とその活用方法が理解できる。 2.多職種連携・多職種チームでの協働を理解できる。 3.地域・在宅看護マネジメントを理解できる。					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目 2回目 3回目	各種保険制度が理解できる。 1)介護保険制度・医療保険制度 2)地域在宅看護に関わる医療提供体制 3)訪問看護制度 4)地域保健に関わる法制度 5)高齢者に関する法制度 6)権利保障に関する法制度			講義 グループワーク	
4回目	地域・在宅看護実践の場と多職種連携を理解できる。 1) 地域・在宅看護の実践の場 2) 医療専門職との連携 3) 多職種との連携・協働を考える			講義 グループワーク	
5回目	事例を通して多職種連携を考える。			グループワーク 発表	
6回目 7回目 8回目	障害者の地域で暮ら支える制度と、実践の場での支援を理解できる。 1)障がいの定義 2)障がい者を支える法律と制度 3)実践の場での障がい福祉			講義	
9回目 10回目 11回目 12回目	在宅看護におけるケアマネジメントを理解できる。 1) ケアマネジメントとは 2) 事例によりケアプラン作成			講義 グループワーク 発表	
13回目	在宅療養を支える訪問看護の役割を理解できる。 1) 訪問看護の制度と現状 2) 訪問看護における看護師の役割 3) 訪問看護サービスの展開			講義 DVD視聴	
14回目 15回目	映画『いのちの停車場』視聴			DVD視聴	
16回目	試験				
評価方法 筆記試験・課題レポート					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1【医学書院】 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論2【医学書院】					
参考文献					

科目名		講義担当		所属		
健康と暮らしを支える技術		田畑 美雪		彩の風訪問看護ステーション		
履修時期	2年前期	単位数	1単位	時間数	30時間	
受講上の留意点						
科目のねらい・授業目標 暮らしの場で看護するために必要な看護援助と、実践するために必要な安全対策と事故防止の知識について理解できる。						
授業回数	学習内容と成果			方法	備考	
1回目	地域在宅看護の展開について理解できる 地域在宅看護の特徴と看護展開 家族のアセスメントと支援 コミュニケーション			講義 グループワーク	嚥下 TPN、 カフティポン プ おむつ交換 ストーマ フットケア スクイー ジ ング 排痰 体位変換 ドレッシング 材	
2回目	療養者の暮らしを取りまく安全対策が理解できる リスクマネジメント・暴力・ハラスメント 療養環境調整の必要性が理解できる 療養環境の調整方法とアセスメント			講義 グループワーク		
3回目 4回目	日常生活を支える看護を理解できる 食生活・嚥下 経鼻経管栄養法・胃ろうの管理 在宅中心静脈栄養・内服管理			講義		
5回目 6回目	排泄・ストーマ			講義 演習		
7回目 8回目	清潔・衣生活 フットケア			講義 演習		
9回目 10回目	在宅における呼吸・循環環境のアセスメント方法が理解できる フジカルアセスメント 呼吸法・HOT管理・排痰法・人工呼吸器			講義 演習		
11回目 12回目 13回目	創傷管理に関する地域・在宅看護技術が理解できる マットレスの選択・体位変換 テープ・ドレッシング材・薬剤の選定方法 褥瘡・スキンケアのケア方法			講義		
14回目	地域在宅における時期別の看護について理解できる 内服管理・疼痛コントロール			講義		
15回目	地域在宅看護における看護実践の考え方が理解できる 多様な場の在宅看護マネジメント			講義		
16回目	試験					
評価方法 筆記試験						
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論2【医学書院】						
参考文献						

科目名		講義担当		所属		
健康と暮らしを支える技術		田畑 美雪		彩の風訪問看護ステーション		
履修時期	2年前期	単位数	1単位	時間数	30時間	
受講上の留意点						
科目のねらい・授業目標 暮らしの場で看護するために必要な看護援助と、実践するために必要な安全対策と事故防止の知識について理解できる。						
授業回数	学習内容と成果			方法	備考	
1回目	地域在宅看護の展開について理解できる 地域在宅看護の特徴と看護展開 家族のアセスメントと支援 コミュニケーション			講義 グループワーク	嚥下 TPN、 カフティポン プ おむつ交換 ストーマ フットケア スクイー ジ ング 排痰 体位変換 ドレッシング 材	
2回目	療養者の暮らしを取りまく安全対策が理解できる リスクマネジメント・暴力・ハラスメント 療養環境調整の必要性が理解できる 療養環境の調整方法とアセスメント			講義 グループワーク		
3回目 4回目	日常生活を支える看護を理解できる 食生活・嚥下 経鼻経管栄養法・胃ろうの管理 在宅中心静脈栄養・内服管理			講義		
5回目 6回目	排泄・ストーマ			講義 演習		
7回目 8回目	清潔・衣生活 フットケア			講義 演習		
9回目 10回目	在宅における呼吸・循環環境のアセスメント方法が理解できる フジカルアセスメント 呼吸法・HOT管理・排痰法・人工呼吸器			講義 演習		
11回目 12回目 13回目	創傷管理に関する地域・在宅看護技術が理解できる マットレスの選択・体位変換 テープ・ドレッシング材・薬剤の選定方法 褥瘡・スキンケアのケア方法			講義		
14回目	地域在宅における時期別の看護について理解できる 内服管理・疼痛コントロール			講義		
15回目	地域在宅看護における看護実践の考え方が理解できる 多様な場の在宅看護マネジメント			講義		
16回目	試験					
評価方法 筆記試験						
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論2【医学書院】						
参考文献						

科目名	講義担当		所属		
成人・老年期の生命の 危機にある人の看護	皆川 千年		秋田市医師会立秋田看護学校		
履修時期	2年前期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点 1.授業内容について教科書を読み授業に参加すること。 2.手術経験者に「手術についての思い」、「手術による生き方の変化」についてインタビューをする。(自分を含め、身近に対象者がいる場合) 3.本講義は「成人期・老年期の周手術期実習」に直結する位置付けであるため実習前に習得すること。 4.8～12回目は各病態論の講義内容を復習の上臨むこと。 5.13、14回目は演習です。ユニフォーム着用の上参加してください。					
科目のねらい・授業目標 健康レベルの特徴を理解し、生命の維持・回復、生活の再構築と日常生活への適応に向けた看護について理論と方法を学ぶ					
授業回数	学習内容と成果		方法	備考	
1回目	オリエンテーション/クリティカルな成人・高齢者の特徴と看護		講義	テキスト1、資料	
2回目	クリティカルケアにおける生体反応とアセスメント		講義	テキスト1、資料	
3回目	クリティカルな状態にある対象の全身管理と日常への支援 (呼吸、体液・循環、体温、栄養、代謝、鎮痛、感染予防)		講義	テキスト1、資料	
4回目	術前の看護 (インフォームドコンセント、術前オリエンテーション、身体準備)		講義	テキスト2、資料	
5回目	術中の看護 (環境、麻酔導入・覚醒時の看護、直接・間接介助、手術体位)		講義	テキスト2、資料	
6回目	術後の看護① (術後モニタリング、術後疼痛、術後回復促進ケア)		講義	テキスト2、資料	
7回目	術後の看護② (術後合併症と予防のための看護)〃		講義	テキスト2、資料	
8回目	消化器系・吸収障害を持つ対象の周手術期看護 ① 事例を通して対象を理解する		講義・演習	テキスト2、3、資料	
9回目	消化器系・吸収障害を持つ対象の周手術期看護 ② 事例を通して看護展開を考える		講義・演習	テキスト2、3、資料	
10回目	運動器障害を持つ対象の周手術期看護 ① 事例を通して対象を理解する		講義・演習	テキスト2、3、資料	
11回目	運動器障害を持つ対象の周手術期看護 ② 事例を通して看護展開を考える		講義・演習	テキスト2、3、資料	
12回目	周手術期における看護技術		講義・演習	テキスト2、3、資料	
13回目	術直後の管理		演習	テキスト1、2、3、 資料 実習室使用 ユニフォーム着用	
14回目	術後早期離床への援助				
15回目	試験・まとめ				
評価方法 筆記試験、演習レポート、演習参加状況					
使用するテキスト 1.系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学.医学書院 2.系統看護学講座 別巻 .臨床外科看護総論 .医学書院 3.系統看護学講座 別巻 臨床外科看護学各論. 医学書院					
参考文献 周手術期看護学習ワークブック(メジカルフレンド社)					

科目名		講義担当		所属	
成人・老年期の生を支え 再構築する看護		高橋 文子		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	2年前期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点 ・各疾患の解剖生理をしっかり学習し講義に望むこと。 ・グループワーク中心となるため、個人学習をしっかり行うこと。					
科目のねらい・授業目標 1.成人・老年期における慢性期の特徴とセルフケア獲得に向けた看護を理解できる。 2.リハビリテーション期の特徴と対象の看護を理解できる。 3.慢性疾患を抱えながら生活を再構築する対象の疾患と看護を理解できる。					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	慢性期の特徴と看護を理解できる。			講義	
2回目	リハビリテーション期の特徴と看護を理解できる。			講義	リハビリテーション看護 成人看護学[7]脳・神経
3回目	脳・神経障害の主な症状と看護を理解できる。 事例)脳梗塞事例で看護展開			講義 グループワーク	
4回目					
5回目				発表	
6回目	血液疾患をもつ対象の看護を理解できる。 事例)白血病事例で看護展開			講義 グループワーク	
7回目					
8回目				発表	
9回目	循環器機能障害をもつ対象の看護を理解できる。 事例)心不全事例で看護展開			講義 グループワーク	[3]循環器
10回目					
11回目				発表	
12回目	呼吸機能障害をもつ対象の看護を理解できる。 事例)慢性呼吸不全で看護展開			講義 グループワーク	[2]呼吸器
13回目					
14回目				発表	
15回目	試験・まとめ				
評価方法 筆記試験・課題レポート					
使用するテキスト 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護【医学書院】 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [2]呼吸器 [3]循環器 [4]血液・造血器 [7]脳・神経【医学書院】					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
社会の中の成人看護		高橋 文子		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1年後期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標 1.成人期の人々の発達の特徴と課題、健康特性、役割を理解する。 2.健康に影響する諸因子を理解し、保健に必要性を理解する。 3.成人保健の動向を知り、健康な生活を維持増進するための看護の役割を理解する。 4.成人期の心身・社会的成熟・適応に関する知識を深め、心身・社会的成熟・適応を促すための看護理論を理解する。					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	成人の特徴を理解できる。			講義 グループワーク	
2回目					
3回目	成人保健の動向を理解できる。			講義 グループワーク	
4回目	成人期における健康問題を理解できる。			講義 グループワーク	
5回目	健康の維持・増進・疾病の予防に向けた看護を理解できる。			講義 グループワーク	
6回目					
7回目	成人の能力や生活背景をふまえた看護援助が理解できる。			講義 グループワーク	
8回目	試験・まとめ				
評価方法					
筆記試験					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1]成人看護学総論. 医学書院					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
がんとともに生きる成人看護		皆川 千年		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	2年後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
授業内容について教科書を読み授業に参加すること。					
科目のねらい・授業目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1.がんとともに生きる対象の生活に及ぼす身体的、精神的、社会的苦痛を理解することができる。 2.がんとともに生きる対象がより良い生活を送るための意思決定場面とその支援の必要性を理解することができる。 3.症状や治療の副作用によって生じる生活の変化に応じた援助を理解することができる。 4.緩和ケアを必要とする患者と家族を理解し看護することができる。 5.自己の死生観を明らかにすることができる。 					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	がんとともに生きる対象を理解できる ・がんサバイバーシップケア・がん検診			講義	テキスト1
2回目	がん患者の抱える苦痛			講義	テキスト1
3回目	がん治療に対する看護を理解できる ・がん手術療法を受ける患者の看護			講義	テキスト1
4回目	がん治療に対する看護を理解する ・薬物療法を受ける患者の看護			講義	テキスト1
5回目	がん治療に対する看護を理解することができる ・放射線療法を受ける患者の看護			講義	テキスト1
6回目	がん治療に対する看護を理解できる ・造血幹細胞移植を受ける患者の看護			講義	テキスト1
7回目	がん治療に対する看護を理解する ・免疫療法を受ける患者の看護			講義	テキスト1
8回目	がん患者の社会参加への支援			講義	テキスト1
9回目	がん治療の場と看護について理解できる ・病院(一般・ホスピス)・地域・在宅			講義	テキスト1
10回目	緩和ケア概論			講義	テキスト1.2
11回目	痛みの治療と看護			講義	テキスト1・2
12回目	緩和ケアと生命倫理			講義	テキスト1・2
13回目	臨死期の看護			講義	テキスト1・2
14回目	事例で考えるがん看護			講義 グループワーク	テキスト1・2
15回目	事例で考えるがん看護			講義 グループワーク	テキスト1・2
16回目	試験				
評価方法					
授業参加状況・筆記試験					
使用するテキスト					
1.系統看護学講座 別巻 がん看護. 医学書院					
2.系統看護学講座 別巻 緩和ケア. 医学書院					
参考文献					
看護学テキスト がん看護.南江堂、がん看護コアカリキュラム日本. 医学書院					

科目名		講義担当		所属	
生きているための成人看護		高橋 久美子		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	2年前期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
授業内容について教科書を読み授業に参加すること。					
科目のねらい・授業目標					
生きているために必須な呼吸、循環、尿排泄に障害を持つ対象の看護に必要な知識、技術、態度を学ぶ 1.呼吸機能障害の症状と原因がわかり、対象に及ぼす影響を理解し対象に応じた看護援助を理解できる。 2.循環機能障害の症状と原因がわかり、対象に及ぼす影響を理解し対象に応じた看護援助を理解できる。 3.尿・排泄機能障害の症状と原因がわかり、対象に及ぼす影響を理解し対象に応じた看護援助を理解できる					
授業回数	学習内容と成果		方法	備考	
1回目	I.呼吸・循環のしくみ/患者像を想像してみよう 1.呼吸機能障害をもつ対象患者の呈する主な症状		講義	授業オリエンテーション、聴診器持参	
2回目	2.呼吸機能障害をもつ対象の看護 事例)気管支喘息 1)症状と看護 2)検査を受ける対象の看護		講義	[2]呼吸器	
3回目	3)治療を受ける対象の看護		講義	[2]呼吸器	
4回目	4)看護過程に基づく看護活動の展開方法		講義・グループワーク	[2]呼吸器	
5回目	5)看護過程に基づく看護活動の展開方法		講義・グループワーク	[2]呼吸器	
6回目	3.循環機能障害をもつ対象の看護 事例)急性心筋梗塞		講義	呼吸器中間試験 [3]循環器	
7回目	1)症状と看護		講義	[3]循環器	
8回目	2)検査・治療を受ける対象の看護		講義	[3]循環器	
9回目	3)合併症		講義	[3]循環器	
10回目	4.恒久的ペースメーカー植え込み術を受ける患者の看護		講義	[3]循環器	
11回目	II.泌尿器の疾患をもつ対象の看護		講義	[8]腎・泌尿器	
12回目	慢性腎臓病をもつ対象の看護		講義・グループワーク	[8]腎・泌尿器	
13回目	事例展開(腎不全)		グループワーク	[8]腎・泌尿器	
14回目	事例発表		グループ発表	[8]腎・泌尿器	
15回目	試験・まとめ			循環器、腎・泌尿器	
評価方法 筆記試験・課題レポート・グループワーク参加状況					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2]呼吸器, [3]循環器, [8]腎・泌尿器. 医学書院					
参考文献 臨床外科看護総論 臨床外科看護学各論 . 医学書院					

科目名		講義担当		所属	
生きていくための成人看護		高橋 文子		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	2 年前期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
受講上の留意点 ・各疾患の解剖、治療、検査、症状を事前学習し講義に望むこと。					
科目のねらい・授業目標 生きていくために必要な内臓器・運動器・免疫機能に障害をもつ対象の看護に必要な知識・技術・態度を理解できる。 1.内臓障害の症状と原因がわかり、対象に及ぼす影響と看護を理解できる。 2.運動器機能障害の症状と原因がわかり、対象に及ぼす影響と看護を理解できる。 3.内分泌・免疫機能障害の症状と原因がわかり、対象に及ぼす影響と看護を理解できる。 4.脳・神経機能障害の症状と原因がわかり、対象に及ぼす影響と看護を理解できる。					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1 回目	肝硬変をもつ対象の看護を理解できる。			講義	[5] 消化器
2 回目	膵炎をもつ対象の看護を理解できる。			講義	
3 回目	胆のう炎をもつ対象の看護を理解できる。			講義	
4 回目	肝硬変をもつ対象の看護を理解できる。			講義 グループワーク	
5 回目					
6 回目	腰椎椎間板ヘルニアをもつ対象の看護を理解できる。			講義	[10] 運動器
7 回目	脳・視床下部・下垂体機能障害をもつ対象の看護を理解できる。			講義	[6] 内分泌・代謝
8 回目	甲状腺・副甲状腺機能障害をもつ対象の看護を理解できる。 副腎皮質機能障害をもつ対象の看護を理解できる。 事例)甲状腺機能亢進症			講義 グループワーク	
9 回目					
10 回目					
11 回目	関節リウマチをもつ対象の看護を理解できる。			講義	[7] 脳・神経
12 回目	全身性エリテマトーデスをもつ対象の看護を理解できる。			講義	
13 回目	筋ジストロフィーをもつ対象の看護を理解できる。			講義	
14 回目	筋萎縮性側索硬化症の看護を理解できる。			講義	
15 回目	試験				
評価方法 筆記試験・課題レポート					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[5]消化器[6]内分泌・代謝[7]脳・神経[10]運動器 . 医学書院					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
成人看護技術		筒井 あすか 高橋 文子		市立秋田総合病院 秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	2年前期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点 ・疾患の治療、検査、症状を事前学習し講義に臨むこと。 ・技術演習実施のため、演習内容を熟読し演習に臨むこと。					
科目のねらい・授業目標 対象の健康レベルに応じた必要な知識と看護過程の展開、基本的な技術を理解できる。 1.慢性期における対象のアセスメントができ、看護過程の展開ができる。 2.看護技術、方法を習得できる。					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	糖尿病の食事療法・運動療法・合併症予防を理解できる。			講義	[6]内分泌
2回目	自己血糖測定の方法の実際を理解できる。			講義	[6]内分泌
3回目	自己血糖測定			演習	
4回目	糖尿病疾患をもつ対象の看護展開ができる。 事例)糖尿病			講義 グループワーク 発表	[6]内分泌
5回目					
6回目					
7回目					
8回目	試験・まとめ				
評価方法 筆記試験・課題レポート					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [6]内分泌 . 医学書院					
参考文献					

科目名 高齢者を支えるための看護		講義担当 佐藤 聡美		所属 前職 中通高等看護学院	
履修時期	1年後期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標 高齢者の医療福祉の動向を理解し、対象とその家族に対する看護の役割を理解できる。 1.高齢者の生活と健康問題について理解できる。 2.高齢者の権利擁護を理解できる。					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	加齢と老化を理解できる。 =第1章= 1)身体的・心理的・社会的側面の変化 2)高齢者の定義 3)老年期の発達課題			講義	
2回目 3回目	超高齢社会の社会保障が理解できる =第2章= 1)超高齢社会の統計的輪郭 2)介護保険制度 3)高齢者医療の仕組み 4)高齢者の権利擁護			講義	
4回目	老年看護のなりたちを理解できる。 =第3章= 1)老年看護の役割と特徴 2)老年看護の理論・概念			講義	
5回目	高齢者のヘルスアセスメントの基本を理解できる。 =第4章= 1)ヘルスアセスメントの基本			講義	
6回目 7回目	高齢者の終末期の看護を理解できる。 =第8章= 1) エンドオブライフケアの概念 2) 生きることを支えるケア 3) 意思決定の支援 4) 末期段階に求められるケア			講義	
8回目	試験 60分 100点				
評価方法					
筆記試験・課題レポート					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 老年看護学. 医学書院					
参考文献					

科目名 健康障害をもつ高齢者の 回復を促す看護		講義担当 佐藤 聡美		所属 前職 中通高等看護学院	
履修時期	2 年前期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標 高齢者の加齢変化にともなう健康障害に特徴と看護を理解できる。 1.健康障害をもつ高齢者の特徴を理解できる。 2.高齢者に生じやすい症状と看護を理解できる。 3.認知機能障害のある高齢者を理解する。					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1～2 回目	1. 高齢者の加齢変化に伴うヘルスアセスメントを理解する。 =第4章= 1) 皮膚・視聴覚・感覚 2) 循環系・呼吸器系・消化器系 3) ホルモンの分泌・泌尿器生殖器 4) 運動系 ・ロコモティブシンドローム・サルコペニア			講義	
3～6 回目	2. 高齢者によくある症状のアセスメントとその看護を理解する。=第6章= 1) 発熱 ・ 痛み 2) かゆみ ・ 脱水 3) 嘔吐 ・ 浮腫 4) 倦怠感 ・ 褥瘡 その他			講義	
7 回目	3. 身体疾患のある高齢者の看護を理解する。 1) 脳卒中			試験 講義	
8～11 回目	2) 心不全 ・ 糖尿病 3) 慢性閉塞性肺疾患 ・ パーキンソン病 4) インフルエンザ ・ 肺炎 5) 骨粗しょう症 ・ 骨折			講義	
12～15 回目	4. 認知機能障害のある高齢者の看護を理解する。 1) うつ 2) せん妄 3) 認知症			講義	
16 回目	試験 60 分 60 点				
評価方法					
筆記試験・課題レポート					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 老年看護学. 医学書院					
参考文献					

科目名 高齢者のより健康な生活を 支援する看護		講義担当 佐藤 聡美 藤本 具子		所属 前職 中通高等看護学院 秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	2年後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標					
1. 高齢者に生じる身体的変化を理解し、生活支援のための看護を理解できる。 2. 高齢者の健康障害の病態と看護を理解する。 3. 紙上事例を用いて健康障害のある高齢者の看護過程の展開ができる。					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	老年症候群とフレイルを理解し、アセスメントと看護が理解できる。 ＝第5章＝ 1)日常生活動作と環境のアセスメントと看護			講義	
2回目	2)食事・食生活のアセスメントと看護			講義	
3回目	3)排泄のアセスメントと看護			講義	
4回目	4)清潔のアセスメントと看護			講義	
5回目	5)生活リズムのアセスメントと看護			講義	
6回目	6)コミュニケーションのアセスメントと看護			講義	
7～8回目	日常生活動作の看護援助を理解できる。 ・体位変換、入れ歯洗浄、嚥下体験			演習	
9～15回目	パーキンソン病の看護を理解できる。 1) パーキンソン病の病態・検査・治療 2) 看護 3) 事例看護展開 運動機能障害の看護を理解できる。 事例)大腿骨頸部骨折患者の看護展開			講義 グループワーク	
16回目	試験				
評価方法					
筆記試験・課題レポート					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
社会の中でともに育つ子ども		薄田 悦子		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	2 年前期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
受講上の留意点					
子どもをイメージし理解できるように講義に臨み、事前の課題にも主体的に取り組みましょう					
科目のねらい・授業目標					
小児看護の対象である小児各期の特徴について学び、小児各期の健康増進のための看護を理解できる。 また、子どもと家族を取り巻く保健・医療・福祉の変遷を知り、小児看護の現状や求められている看護の役割について理解できる。					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1 回目	1) 子どもの特性と小児看護の対象が理解できる 2) 子どもと家族の諸統計、小児看護の変遷について理解できる 3) 小児看護の役割が理解できる			講義	
2 回目	小児看護を支える基本理念が理解できる 1) 子どもの権利と権利保障 2) 小児医療における倫理的課題 3) 虐待が疑われる子どもの看護			講義	
3 回目	子どもの成長・発達の特徴を理解できる			講義	
4 回目	1) 子どもの成長・発達				
5 回目	2) 子どもの成長・発達の原則				
6 回目	3) 成長・発達に影響を及ぼす因子				
7 回目	4) 形態的発達 5) 機能的発達 6) 心理社会的発達 7) 発育・発達の評価				
8 回目	小児各期の特徴と健康増進のための看護を理解できる			講義	
9 回目	1) 小児各期の特徴				
10 回目	新生児期・乳児期・幼児期・学童期・思春期				
11 回目	2) 小児各期の養育と健康問題				
12 回目	3) 小児各期の看護				
13 回目					
14 回目	子ども・家族を取り巻く社会の変化を読み取り、子どもの健康・保健・福祉について理解を深める 1) 子ども・家族を取り巻く法律と政策 児童福祉法、母子保健法、児童虐待防止法、学校保健安全法 2) 小児医療・小児看護の現状と課題			講義	
15 回目	試験とまとめ				
評価方法					
筆記試験					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院					
参考文献					
講義に関係のあるものを随時紹介する					

科目名		講義担当		所属	
健康障害をもつ子どもとその家族		山本 尚樹 薄田 悦子		市立秋田総合病院 秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	2年前・後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
講義前にはテキストを熟読し臨むこと 演習では、各自の意見を積極的に出し合い臨みましょう					
科目のねらい・授業目標					
1. 健康障害が子どもと家族に及ぼす影響を理解できる 2. 入院を必要とする子どもと家族に必要な看護を述べるができる 3. 健康障害に伴う様々な状況と看護を理解できる					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	外来受診する子どもと家族の看護が理解できる 1) 外来看護の特徴 2) 外来の機能と求められる看護			講義	
2回目	子どもの入院の特徴が理解できる 1) 子どもの入院環境 2) 計画入院と緊急入院			講義	
3回目	入院を必要とする子どもと家族に必要な看護を述べるができる 1) 入院が子どもと家族に及ぼす影響			演習	
4回目	2) 子どもと家族への看護				
5回目	子どもの健康障害に伴う様々な状況と看護を理解できる			講義・演習	
6回目	1) 生活の制限を必要とする子どもと家族の看護				
7回目	2) 検査・処置を受ける子どもの看護				
8回目	3) 手術を受ける子どもと家族の看護				
9回目	4) 救命救急処置が必要な子どもと家族の看護				
10回目	5) 出生直後から集中治療が必要な子どもと家族の看護				
11回目	6) 災害時の子どもと家族の看護				
12回目	7) 先天的な問題を持つ子どもと家族の看護				
13回目	8) 障がいのある子どもと家族の看護				
14回目	9) 在宅療養を必要とする子どもと家族の看護				
15回目	10) 終末期にある子どもと家族の看護				
16回目	試験				
評価方法					
筆記試験					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 医学書院 写真でわかる 小児看護技術アドバンス 山元恵子・佐々木祥子 インターメディカ					
参考文献					
講義に関係のあるものを随時紹介する					

科目名		講義担当		所属	
子どもの病気と看護		薄田 悦子		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	2年後期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点 講義前には既習した子どもの特徴や疾患など必要な内容を確認して臨むこと 臨地実習で活用する内容ですので、個人の意見を活発に出し合い個別性のある看護立案に向け主体的に取り組みましょう					
科目のねらい・授業目標 小児期の主な疾患の病態・症状・治療・看護などを理解し、健康障害のある子どもと家族の特性を踏まえた看護過程を展開できる					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	急性期にある子どもと家族のアセスメントの特徴が理解できる 1) 小児看護の看護過程の特徴 2) 急性期の特徴 3) 情報収集および情報の分析・解釈 4) 問題の抽出			講義・演習	
2回目					
3回目					
4回目	慢性期にある子どもと家族の看護過程が展開できる 1) 慢性期の特徴 2) 情報収集および情報の分析・解釈 3) 問題の抽出 4) 目標設定および計画立案			講義・演習	
5回目					
6回目					
7回目	事例による看護過程の展開を発表し、健康障害のある子どものアセスメントの特徴と看護について理解を深めることができる			演習	
8回目					
評価方法 筆記試験 課題レポート 受講態度					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 医学書院 写真でわかる 小児看護技術アドバンス 山元恵子・佐々木祥子 インターメディカ					
参考文献 講義に関係のあるものを随時紹介する					

科目名	講義担当		所属		
子どものケア	大高 恵美 薄田 悦子		日本赤十字秋田看護大学 秋田市医師会立秋田看護学校		
履修時期	2年後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
事前学習は各自責任をもって取り組みましょう 臨地実習で実践する内容も含まれているため、活用できるようなレポート作成を心掛けましょう					
科目のねらい・授業目標					
1. 健康障害に伴う主な症状と援助方法について説明できる 2. 子どものフィジカルアセスメントに必要な知識・技術について述べるができる 3. 子どもが受ける主な検査・処置と、その援助方法について述べるができる					
授業回数	学習内容と成果		方法	備考	
1回目	子どもの健康障害に伴う主な症状と援助方法について説明できる ： 発熱・発疹・嘔吐・下痢		演習 講義	講義までに事前学習必要	
2回目					
3回目	子どもの健康障害に伴う主な症状と看護について理解できる ： 脱水・浮腫・便秘		講義		
4回目	子どもの健康障害に伴う主な症状と看護について理解できる ： 意識障害・けいれん		講義		
5回目	子どもの健康障害に伴う主な症状と看護について理解できる ： 呼吸困難・チアノーゼ・ショック		講義		
6回目	子どもの健康障害に伴う主な症状と看護について理解できる ： 痛み・出血・貧血・黄疸		講義		
7回目	子どものフィジカルアセスメントに必要な知識・技術について述べる ことができる 1. 子どものアセスメントに必要な技術 身体計測、バイタルサイン測定 2. 子どもの身体的アセスメント 一般状態、眼・耳・顔面・鼻・口腔、呼吸、心臓・血管系、 腹部、筋・骨格系、神経系、生殖器系、リンパ系、皮膚その他		講義		
8回目					
9回目	子どものフィジカルアセスメントができる 身体計測、バイタルサイン測定		演習	別紙演習資料参照 ユニホーム着用	
10回目					
11回目	子どもが受ける主な検査や処置の特徴と、その援助方法について 理解できる 検体採取(採血・採尿)、穿刺(腰椎穿刺・骨髄穿刺)		講義		
12回目	子どもの与薬・経管栄養・注射・輸液療法における看護が理解 できる		講義		
13回目	子どもの呼吸状態緩和における看護が理解できる 酸素療法・吸入・吸引		講義		
14回目	子どもの点滴固定と輸液管理について理解し実施できる		演習	別紙演習資料参照 ユニホーム着用	
15回目					
16回目	試験				
評価方法 筆記試験 課題レポート 受講態度					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 医学書院 写真でわかる 小児看護技術アドバンス 山元恵子・佐々木祥子 インターメディカ					
参考文献 講義に関係のあるものを随時紹介する					

科目名		講義担当		所属	
母性看護学概論		佐々木 寿美礼		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	2 年前期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標					
女性を取り巻く環境と、女性の生涯の健康、ライフサイクル各期の看護および次世代育成のための支援について理解する。母性看護の基盤となる概念について学ぶ。					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1 回目	母性とは① 母性の定義と親になることの意味を理解できる			講義	教科書・資料
2 回目	母性とは② 母子相互作用と母親役割獲得過程、家族の発達段階について理解できる			講義	教科書・資料
3 回目	リプロダクティブヘルス/ライツ セクシュアリティ リプロダクティブヘルス/ライツを理解できる			講義	教科書・資料
4 回目	母性看護の課題と倫理 母性看護の課題と倫理的問題について理解できる			講義	教科書・資料
5 回目	母子保健① 母子保健に関する施策、母子保健統計の動向を理解できる			講義	教科書・資料
6 回目	母子保健② 母性看護に関わる法律と施策を理解できる			講義	教科書・資料
7 回目	親になるということと母性の発達、生命倫理と看護職の役割について自分の考えを述べるができる			講義・DVD 鑑賞	レポート
8 回目	生殖器の形態と機能① 生殖器の形態と機能、月経周期、妊娠の成立について理解できる			講義	教科書・資料
9 回目	生殖器の形態と機能② 性分化のメカニズムと生殖器の発達、性分化疾患について理解できる			講義	教科書・資料
10 回目	女性のライフサイクル各期における看護① 思春期女性の特徴、思春期の健康問題と健康教育を理解できる			講義	教科書・資料
11 回目	女性のライフサイクル各期における看護② 性成熟期女性の特徴、性成熟期の健康問題と看護、女性特有のがんを理解できる			講義	教科書・資料
12 回目	女性のライフサイクル各期における看護③ 更年期・老年期女性の特徴、更年期・老年期女性の健康問題と看護を理解できる			講義	教科書・資料
13 回目	リプロダクティブヘルスケア① 家族計画、主な性感染症と予防を理解できる。ライフサイクルに適した健康教育の実践ができる			講義	教科書・資料
14 回目	リプロダクティブヘルスケア② グループワーク発表			発表	教科書・資料
15 回目	試 験				
評価方法					
試験(80 点)+レポート、グループワーク(20 点)					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 母性看護学[1] 母性看護学概論、医学書院					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
周産期ケア論		中村 幸恵		並木クリニック	
履修時期	2年前・後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標 正常な妊娠・分娩・産褥期の身体的・心理的变化の特徴と看護を学ぶ。新生児の正常な経過と特徴を理解し、健康状態の観察点と看護について理解する					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	妊娠期の看護① 妊娠期の身体的・心理的・社会的特性を理解できる			講義	教科書・資料
2回目	妊娠期の看護② 妊娠とその診断、胎児の発育と健康状態の診断と看護について理解できる			講義	教科書・資料
3回目	妊娠期の看護③ 妊婦と胎児の経過の診断とアセスメントができる			講義	教科書・資料
4回目	妊娠期の看護④ 妊婦が受ける母子保健サービスと健康教育について理解できる			講義	教科書・資料
5回目	分娩期の看護① 分娩の3要素および分娩の経過について理解できる			講義	教科書・資料
6回目	分娩期の看護② 産婦と胎児、家族のアセスメントができる			講義	教科書・資料
7回目	分娩期の看護③ 安全分娩への看護について理解できる			講義	教科書・資料
8回目	分娩期の看護④ 分娩期の看護の実際について理解できる			講義	教科書・資料
9回目	新生児期の看護① 新生児の生理と機能を理解できる			講義	教科書・資料
10回目	新生児期の看護② 新生児のアセスメントができる			講義	教科書・資料
11回目	新生児の看護③ 出生直後から生後1か月健診までの看護について理解できる			講義	教科書・資料
12回目	産褥期の看護① 産褥期の身体的・心理的・社会的変化を理解できる			講義	教科書・資料
13回目	産褥期の看護② 退行性変化、進行性変化への看護について理解できる			講義	教科書・資料
14回目	産褥期の看護③ 母乳育児支援を理解できる			講義	教科書・資料
15回目	産褥期の看護④ 育児にかかわる看護、家族への看護について理解できる			講義	教科書・資料
16回目	試験				
評価方法					
試験(80点)+レポート(20点)					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2] 母性看護学各論、医学書院					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
母性看護技術		佐々木 寿美礼		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	2年後期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点 実習室における演習の際は身だしなみを整えること。					
科目のねらい・授業目標 妊産褥婦の観察技術、新生児の観察技術および清潔技術援助について学び、実践できる。母子を1つの単位としてとらえ、看護過程の展開ができる。					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	母性看護技術とは 妊婦、褥婦、新生児の観察技術および新生児の清潔援助について理解できる			講義	教科書・資料
2回目	妊婦、褥婦、新生児の観察技術 レオポルド触診法と産褥期の観察、新生児のバイタルサイン測定を実施できる			演習	教科書・資料
3回目	新生児の清潔援助① 新生児の沐浴を実施できる			演習	教科書・資料
4回目	新生児の清潔援助② 新生児の沐浴を実施できる			演習	教科書・資料
5回目	看護過程の展開① 母性看護における看護過程の考え方について理解できる			講義・グループワーク	教科書・資料
6回目	看護過程の展開② 母性看護過程の展開ができる			グループワーク	教科書・資料
7回目	看護過程の展開③ 母性看護過程の展開ができる			グループワーク	教科書・資料
8回目	試験・まとめ				
評価方法 看護過程、演習参加態度(100点)					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2] 母性看護学各論、医学書院					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
周産期の健康逸脱と看護		佐々木 寿美礼		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	2年後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
<p>科目のねらい・授業目標</p> <p>妊娠・分娩・産褥期および新生児の健康逸脱と看護について学ぶ。母子の正常な経過と起こりうるリスクをふまえた看護について理解できる。</p>					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	ハイリスク妊婦の看護① 妊娠期の感染症とその看護について理解できる			講義	教科書・資料
2回目	ハイリスク妊婦の看護② 妊娠期の合併症とその看護について理解できる			講義	教科書・資料
3回目	ハイリスク妊婦の看護③ 妊娠持続期間の異常とその看護について理解できる			講義	教科書・資料
4回目	ハイリスク妊婦の看護④ 胎児付属物の異常とその看護について理解できる			講義	教科書・資料
5回目	ハイリスク妊婦の看護⑤ 不妊治療とその看護について理解できる			講義	教科書・資料
6回目	分娩期の異常と看護① 産道、胎児、胎児付属物の異常とその看護について理解できる			講義	教科書・資料
7回目	分娩期の異常と看護② 異常分娩とその看護について理解できる			講義	教科書・資料
8回目	分娩期の異常と看護③ 帝王切開分娩とその看護について理解できる			講義	教科書・資料
9回目	分娩期の異常と看護④ 分娩時異常出血とその看護について理解できる			講義	教科書・資料
10回目	産褥期の異常と看護① 退行性変化の異常とその看護について理解できる			講義	教科書・資料
11回目	産褥期の異常と看護② 進行性変化の異常とその看護について理解できる			講義	教科書・資料
12回目	産褥期の異常と看護③ 産褥期の精神障害とその看護について理解できる			講義	教科書・資料
13回目	新生児の異常と看護① 新生児仮死とハイリスク新生児の看護について理解できる			講義	教科書・資料
14回目	新生児の異常と看護② 低出生体重児と高ビリルビン血症およびその看護について理解できる			講義	教科書・資料
15回目	新生児の異常と看護③ 早産児とその看護について理解できる			講義	教科書・資料
16回目	試験				
評価方法					
試験(100点)					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2] 母性看護学各論、医学書院					
参考文献					

科目名	講義担当	所属	
精神看護学概論	京野 順子	秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	2年前期	単位数	1単位
		時間数	30時間
受講上の留意点 精神障害に対するイメージを明確にし、障害の捉え方を学んでいきましょう。 授業内容について教科書を熟読しわからないところを明確にして臨みましょう。			
科目のねらい・授業目標 1.精神看護の概念を理解し、精神看護の目的・機能・役割を理解する。 2.精神保健医療の変遷や法制度をとおして、精神に障害をもつ人を理解できる。 3.精神の健康を保持・増進する方法を理解する。			
授業回数	学習内容と成果	方法	備考
1回目 2回目	精神看護学の考え方 精神障害の基本的な考え方 1)こころの健康とは 2)障害の捉え方 3)社会の変化とメンタルヘルス 4)精神障害のきっかけとプロセス 5)対象理解の難しさ 6)精神障害とともに生きるということ	講義	
3回目	人間のこころと行動 1)人のこころのさまざまな理解 2)こころと環境	講義	
4回目	人格の発達と情緒体験 1)対人関係論の立場から 2)対象との出会い 3)母子関係の発展	講義 グループワーク	
5回目 6回目	映画から学ぶ精神看護	DVD	レポート提出
7回目 8回目 9回目 10回目	人生各期の発達課題 1)ライフサイクルとストレス 2)ライフサイクル各期における特徴と危機 現代社会とこころ 人間の性格傾向と生活様態、行動パターンの関連	講義	
11回目	精神的不健康の予防 1)第1次予防 2)第2次予防 3)第3次予防		
12回目	家族とその支援 1)家族とは何か 2)家族をみる視点 3)家族の課題 4)精神疾患と家族	講義	
13回目	精神医療と看護の歴史的変遷	講義	
14回目 15回目	精神保健医をめぐる法律 1)精神保健医療に関する法制度の変遷 2)精神保健福祉法の基本的な考え方 3)精神保健福祉法による入院形態	講義	
16回目	試験		
評価方法 筆記試験 課題レポート			
使用するテキスト ナーシング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本 メディカ出版			
参考文献 講義に関係のあるものを随時紹介する			

科目名	講義担当	所属			
精神看護技術	中川 まゆ子	秋田市医師会立秋田看護学校			
履修時期	2年前期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点					
ペプロウの人間関係論及びセルフケア理論については、事前に参考資料を読み授業に参加しましょう。 臨地実習で実践する内容も含まれているため、活用できるようなノートの作成を心がけましょう。					
科目のねらい・授業目標					
精神看護における基本技術と精神看護の展開方法を理解する。					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	患者—看護師関係成立発展 1)ペプロウの人間関係論			講義	
2回目 3回目	治療的コミュニケーション技術 1)治療的コミュニケーションの定義 2)介入が必要な状況や現象 3)介入方法 4)介入の留意点 5)患者—看護師のコミュニケーションの実際			講義 演習	
4回目 5回目	自己洞察の意義と再構成 1)プロセスレコードとは 2)プロセスレコードの活用目的 3)プロセスレコードの記述方法 4)事例を通して(ペプロウの看護理論を用いて)			講義 グループワーク	
6回目 7回目	セルフケア理論の理解 1)オレムによるセルフケアの定義 2)アンダーウッドによるオレム看護論の修正・操作化 3)ケアレベルとセルフケア評価 セルフケア行動の観察のポイントと具体的援助方法			講義 グループワーク	
8回目	試験・まとめ				
評価方法					
筆記試験 課題ノート					
使用するテキスト					
看護実践のための根拠が分かる精神看護技術 メヂカルフレンド社					
参考文献					
講義に関係のあるものを随時紹介する					

科目名		講義担当		所属	
精神の健康障害と看護		備前 由紀子 齋藤武彦 中川 まゆ子		市立秋田総合病院 秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	2年前期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
講義前には、既習した精神疾患など必要な内容を確認して臨みましょう。 臨地実習で実践する内容も含まれているため、活用できるようなノートの作成を心がけましょう。					
科目のねらい・授業目標					
精神に障害のある対象の精神症状や疾患に応じた看護を理解できる。					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目 2回目	統合失調症(急性期)患者の看護			講義 演習	
3回目 4回目	統合失調症(慢性期)患者の看護			講義	
5回目	気分障害患者の看護			講義	
6回目 7回目	認知症患者の看護			講義 グループワーク	
8回目	心身症患者の看護			講義	
9回目	アルコール依存症患者の看護			講義	
10回目	薬物依存症患者の看護			講義	
11回目	パーソナリティ障害患者の看護			講義	
12回目	パニック障害患者の看護			講義	
13回目	摂食障害患者の看護			講義	
14回目	被虐待児症候群の看護			講義	
15回目	解離性障害者の看護			講義	
16回目	試験				
評価方法					
筆記試験					
使用するテキスト					
ナーシング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践 メディカ出版 看護実践のための根拠が分かる精神看護技術 メディカルフレンド社					
参考文献					
講義に関係のあるものを随時紹介する					

科目名		講義担当		所属	
精神障害者の 日常生活援助		中川 まゆ子 高橋 将太		秋田市医師会立秋田看護学校 市立秋田総合病院	
履修時期	2年後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点 授業内容について教科書を熟読し、わからないところを明確にして臨みましょう。 精神に障害のある対象の生活の場を学び、グループワークでは各自の意見を尊重し活発に話し合い、自立を支えるための看護について考えていきましょう。					
科目のねらい・授業目標 1. 精神科における治療と看護の役割・身体ケアを理解できる。 2. 精神科医療におけるリハビリテーションの意味や社会資源について理解できる。					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	序章			講義	
2回目	精神科看護におけるケアの方法				
3回目	1)「治療的関わり」の考え方 2)日常生活行動の援助 3)服薬治療に関わる援助				
4回目	ストレスマネジメントと精神科における看護師の役割 1)ストレスマネジメント 2)精神看護にかかわる資格認定			講義	
5回目	入院環境と治療的アプローチ 1)治療の場としての精神科病棟 2)治療的環境を整える 3)精神科病棟でのミーティング—事例から考える— 4)災害時の支援			講義	
6回目	看護の倫理と人権擁護			講義	
7回目					
8回目	救急医療現場における患者支援と精神的関わり 1)自殺企図により救急搬送される患者 2)急性薬物中毒で救急搬送される患者			講義	
9回目	臨地実習から学ぶ			講義 グループワーク	
10回目	1)精神科の看護実習とは				
11回目	2)患者からのさまざまな感情表出				
12回目	3)カンファレンスの意義 4)実習記録				
13回目	「地域で暮らす」を支える 1)日本における精神障害者と精神病床の現状 2)「入院医療」から「地域社会」での生活へ			講義	
14回目	「地域で暮らす」を支える			講義	
15回目	精神保健福祉士の役割 3)地域生活を支える社会資源の活用 4)地域生活(移行)支援の実際 5)事例で学ぶ長期入院患者の退院支援から地域生活支援				
16回目	試験				
評価方法 筆記試験 課題レポート					
使用するテキスト ナーシング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践 メディカ出版					
参考文献 講義に関係のあるものを随時紹介する					

科目名		講義担当		所属	
国際看護		新沼 剛		日本赤十字秋田看護大学	
履修時期	3年後期	単位数	1単位	時間数	15時間
<p>受講上の留意点 普段から新聞、雑誌、テレビ、インターネット等で人間の健康や環境に影響を与える出来事に関心を持ち、情報を収集しておくこと。</p>					
<p>科目のねらい・授業目標 広い視野に立った保健・医療・福祉を考える人材を育成する。 1.国際社会の現状と国際看護について理解できる。 2.世界の人々の健康問題について学び、異文化の価値観を尊重した看護について考えることができる。 3.国際看護活動の課題について考えることができる。</p>					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	ガイダンス ・国際看護の定義・目的・対象 ・世界の人々はどのような環境のもとどのような生活をしているのか			講義	資料
2回目	持続可能な開発目標(SDGs)を理解できる ・SDGsの定義 ・SDGsの保健分野の目標(妊産婦の健康、こどもの健康)			講義	資料
3回目	・SDGsの保健分野の目標(感染症疾患、非感染症疾患)			講義	資料
4回目	国際協力における保健医療専門機関の役割・活動の実際について理解できる ・国際機関の役割と活動			講義	資料
5回目	・政府系援助機関の役割と活動 ・赤十字、非政府組織(NGOs)の役割と活動			講義	資料
6回目	プライマリーヘルスケア(PHC)を理解できる ・PHCの概念 ・ラクの物語の考察			講義	資料
7回目	社会的マイノリティを理解できる ・在留外国人の健康問題と看護 ・性的マイノリティの方々の健康問題と看護			講義	資料
8回目	試験・まとめ			筆記試験	
<p>評価方法 筆記試験</p>					
<p>使用するテキスト テキストは特に定めず、プリントを配布する。</p>					
<p>参考文献</p>					

科目名	講義担当		所属		
災害看護	熊谷洋子		秋田厚生医療センター		
履修時期	3年前期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標 1. 災害が及ぼす影響に対する社会の対応がわかり、社会情勢やニーズについて考えることができる。 2. 災害時に必要な技術を学び、科学的根拠に基づいた安全な技術を探求する。 3. 災害時における看護活動について学び、災害を想定した看護を考えることができる。					
授業回数	学習内容と成果		方法	備考	
1回目	災害医療の基礎				
2回目	災害看護 災害時に必要な医療・看護技術		一次トリアージの実際		
3回目	危機管理 -防災・BCP・感染対策など-				
4回目	災害サイクル: 静穏期・準備期～超急性期の看護				
5回目	災害サイクル: 急性期～亜急性期の看護				
6回目	被災地病院での患者受け入れ机上シミュレーション		グループワーク・発表		
7回目	災害サイクル: 復旧・復興期 こころのケア				
8回目	試験				
検討準備中(現在未定です) ・授業時間内で、動画を視聴いただくことがあります。 ・6回目のシミュレーション以外でもグループワーク、発表をしていただくことがあります。					
評価方法 試験 グループワークの参加状況					
使用するテキスト なし					
参考文献 看護の統合と実践③災害看護 第4版 編者: 酒井明子、長田恵子、三澤寿美 看護の統合と実践3 災害看護・国際看護 第4版 編集: 竹下喜久子 災害支援ナース養成研修テキスト 公益社団法人日本看護協会					

科目名 看護マネジメントと 医療安全		講義担当 吹谷由美子 櫻田明子		所属 秋田県看護協会 市立秋田総合病院	
履修時期	3年前期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点 授業内容について教科書を読み授業に参加すること。					
科目のねらい・授業目標 1.より良い看護サービスを提供するために、看護組織の一員として、医療チームの一員としての看護の役割を学ぶ。 2.広がる看護の活動領域について理解し、看護の質向上が図られていることを学ぶ。 3.看護倫理の基本原則と自己の看護実践を振り返る基盤となる倫理的行動を探求できる。 4.医療安全の考え方を学ぶ。 5.医療事故を予防するための安全システムを学ぶ。 6.事件事例をもとに、講義や既習の知識を活用し安全対策を考えることができる					
【看護マネジメント】					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	1.看護とマネジメント ・看護管理の概略が分かる ・マネジメントプロセスとマネジメントサイクルが分かる ・看護のマネジメントが必要とされている場が分かる			講義	教科書1
2回目 3回目	2.ケアのマネジメント ・患者の権利を守るための概念について理解できる ・看護ケアシステムの種類と特徴について理解し、また他職種との連携・職務を理解することができる			講義	教科書1
4回目 5回目	3.看護サービスのマネジメント ・医療サービスの概念が分かり、評価の必要性を理解できる ・組織をマネジメントするにあたり、理念と現状分析の必要性を理解し、看護の組織化との関わりを理解することができる ・人的資源のマネジメントについて、看護システムの種類・看護単位・労働管理について理解することができる。 ・情報・物品のマネジメントを理解することができる			講義	教科書1
6回目	4.看護をとりまく諸制度 ・看護の定義や看護を取り巻く環境要因としての諸制度を理解できる ・看護教育について理解することができる			講義	教科書1
7回目	5.マネジメントに必要な知識と技術 ・組織の構造とその原理について理解し、マネジメントの関連について理解できる ・組織における人間関係についての諸理論について理解できる ・組織の中での意思決定等個人の能力を広げるための要素について理解できる			講義	教科書1
8回目	試験			筆記試験	
【医療安全】					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
9回目	1.看護のための安全管理(総論) 1)医療安全を学ぶことの重要性 2)医療安全の考え方の変化 3)医療安全に関する基本的用語			講義	教科書2

	4)看護師の法的規定 5)医療安全対策への取り組み		
10 回目	2.ヒューマンエラーの見方・考え方 1)安全とは 2)ヒューマンエラー発生のメカニズム 3)エラーに関係のある人間の特性 4)エラーを起こしやすい環境要因	講義	教科書 2
11 回目	3.事故分析・事故対策 1)事故の構造 2)事故分析の考え方と具体的方法 3)エラーが起こりにくいしくみ作り 4)体系づけられたエラー対策の考え方	講義	
12 回目	4.医療事故後の対応 5.リスクマネジメント:チームで取り組む安全文化の醸成 1)リスクマネジメント 2)チームで取り組む安全文化	講義	
13 回目	6.看護業務に関連する事故と安全対策 I 1)看護業務を行う際の環境の特徴とリスク 2)プロセス型の事故と非プロセス型の事故 3)起こしてはいけない事故(間違い)	講義	
14 回目	7.看護業務に関連する事故と安全対策 II 1)看護業務に関連する医療事故の種類 2)看護業務に関連する医療事故の対策	講義	
15 回目	8.看護業務上の危険と防止策 9.看護学生の実習と安全	講義	
16 回目	試験	筆記試験	
評価方法 筆記試験			
使用するテキスト 1.系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践①看護管理【医学書院】 2.ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践② 医療安全 【MC メディカ出版】			
参考文献 ・河野龍太郎 「医療におけるヒューマンエラー なぜ間違える どう防ぐ」 医学書院 ・東京慈恵会医科大学付属病院 看護部・医療安全管理部編著 TeamSTEPPS を活用したヒューマンエラー防止策			

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名 看護の統合		講義担当 皆川千年		所属 秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	3年前期	単位数	1単位	時間数	15時間
<p>受講上の留意点</p> <p>これまでの講義や実習、学習で培った力に合わせてチームで協働して働くとはどういうことかを考え、対象の安全と安楽、自立を基盤に、大切にしたい看護を行動に示すことが必要です。既習科目のすべてを復習して臨んでください。</p> <p>学習効果を高めるため演習を実施します。</p> <p>臨地実習において活用していきますので積極的に参加しましょう。</p>					
<p>科目のねらい・授業目標</p> <p>1.看護師としての自己を振り返り、看護観を深める。</p> <p>2.看護場面で「起こりやすい現象を予測し、倫理的配慮を行いつつ安全な看護を提供できる。</p>					
授業回数	学習内容と成果		方法	備考	
1回目	複数の事例を理解し、優先順位を考えた看護計画が立案できる。 1.授業計画ガイダンス 2.事例提示 3.複数事例のアセスメント、看護計画立案		講義 個人ワーク	教科書 1 資料	
2回目				教科書 1 資料	
3回目	時間管理、看護チームにおける連絡、報告、相談の重要性がわかる 1.多重課題への対処 2.優先度に合わせた援助計画 3.優先度に合わせた援助内容の修正		講義・演習 グループワーク	教科書 1 資料	
4回目				実習室にて演習	
5回目	状況判断が必要とされる場面における自己の課題を明確にできる 1.自己の課題を見出す		講義 個人ワーク	教科書 1 資料	
6回目	チームメンバーと連携しながら、看護実践中に起こった突発事象に対して根拠に基づいた判断、実施、評価ができる。 1.複数の受け持ち患者の対する看護実践 2.突発的な事象への対処 3.グループ討議を通して看護の優先度について振り返る		講義・演習 グループワーク	教科書 1 資料	
7回目				実習室にて演習	
8回目					
<p>評価方法</p> <p>ワーク取り組み状況、演習状況、レポート</p>					
<p>使用するテキスト</p> <p>系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[1]看護管理.医学書院 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[1]医療安全.医学書院</p>					
<p>参考文献</p>					

臨地実習

基礎看護学実習

I. 実習の目的・目標

1. 基礎看護学実習Ⅰ

実習目的	看護が提供されている場と看護の対象を理解する
実習目標	1. 看護が提供されている場としての病院を理解する 2. 実際の看護活動の見学を通して、看護師の役割を考える 3. 看護学生としての自覚を持ち、社会性を身につける

2. 基礎看護学実習Ⅱ

実習目的	看護が提供されている場と看護の対象を理解し、対象が目指す健康を考え、日常生活援助を実践することができる
実習目標	1. 看護が提供されている場を理解する 2. 看護の対象を身体的・心理的・社会的側面から理解する 3. 看護の対象を生活者として捉え、対象が目指す健康を考える 4. 根拠と留意点を考慮した日常生活援助の計画および実践ができる 5. 看護の対象者の反応を観察・記録・報告し、実践した援助行為について振り返ることができる 6. 看護学生としての自覚をもち、社会性を身につける

3. 基礎看護学実習Ⅲ

実習目的	健康障害にある人を総合的に理解し、その人に必要な個別的・計画的な看護を行うことで、基礎的援助の実践能力を養う
実習目標	1. 健康障害にある人の看護に必要な情報を身体的・精神的・心理社会的側面から総合的にとらえることができる 2. 健康障害にある人の情報を査定し、看護問題を抽出できる 3. 健康障害にある人の看護問題を優先順位にしたがい、問題解決のための計画（具体策）の立案ができる 4. 健康障害にある人の計画（具体策）を実践し、その成果を評価・修正することができる 5. 責任と協調性を重んじる行動がとれる

II. 実習方法

1. 実習単位・実習時期・実習期間

	実習単位	実習時期
基礎看護学実習Ⅰ	1単位	1年前期
基礎看護学実習Ⅱ	1単位	1年後期
基礎看護学実習Ⅲ	2単位	2年前期

2. 主たる実習病棟：市立秋田総合病院・秋田厚生医療センター

3. 実習方法：実習要項参照

4. 実習配置：配置表を参照

5. 実習記録：既定の実習記録用紙を使用

6. 学内演習：実習要項参照

III. 実習の評価

1. 評価対象：実習記録、実習態度、自己学習、出席状況

2. 評価者：実習指導者と教員の両方で行うが、最終評価は教員が行う

3. 評価基準：実習評価表に基づいて評価する

4. 単位認定：単位認定は学則に基づく

地域・在宅看護論実習

I. 実習の目的・目標

1. 地域・在宅看護論実習 I

実習目的	地域で暮らす全ての生活者の特徴がわかり、生活者を支援する社会資源や多職種連携を理解できる。
実習目標	(保健所) 1. 暮らす人々の健康を支える保健所の活動内容が理解できる。 (地域包括支援センター) 1. 地域包括支援センターを利用する対象の目的と、援助の必要性が理解できる。 (各施設) 1. 地域で生活している生活者を理解できる。 2. 住み慣れた場所で安心して生活できるような援助が行われているのか理解できる。 3. 社会資源の活用と多職種連携を理解できる。 4. 地域で生活している生活者を理解するために、主体的に学習できる。

2. 地域・在宅看護論実習 II

実習目的	在宅療養者と家族の特徴を理解し、住み慣れた場所で生活がおくれるよう支援するための基礎的能力を養うことができる。また、在宅療養を支える社会資源や多職種連携を理解できる。
実習目標	1. 在宅療養者とその家族の特徴が理解できる。 2. 事例を通して、訪問看護における看護過程と援助方法が理解できる。 3. 訪問看護師の役割と社会資源の活用、多職種連携が理解できる。 4. 在宅における看護について主体的に学習できる。

II. 実習方法

1. 実習単位：4 単位 180 時間

地域・在宅看護論実習 I 90 時間

地域・在宅看護論実習 II 90 時間

2. 実習時期：地域・在宅看護論実習 I 1 年前期

地域・在宅看護論実習 II 2 年後期

3. 実習施設

地域・在宅看護論実習 I	秋田市保健所・地域包括支援センター 特別養護老人ホーム・短期入所生活介護事業所(ショートステイ) 通所施設(デイサービス)・障がい者施設
地域・在宅看護論実習 II	居宅介護支援事業所 訪問看護ステーション

4. 実習方法

1) 地域・在宅看護論実習 I 10 日間を 1 クールとし実施

(1) 各施設へ訪問し、見学実習

(2) 実習配置：配置表を参照

(3) 実習記録：既定の実習記録用紙を使用

2) 地域・在宅看護論実習 II 10 日間を 1 クールとし実施

(1) 居宅介護支援事業所は見学実習

問看護ステーション実習は、1 事例を受け持ち看護展開を実施

受け持ち以外の訪問看護実習は、見学とする

(2) 実習配置：配置表を参照

(3) 実習記録：既定の実習記録用紙を使用

(4) カンファレンス

5. その他

事前学習準備として、実習要項の事前学習内容を学習し実習に臨むこと

III. 実習評価

1. 評価対象：学習内容・学習行動・看護過程・実習記録・出席状況

2. 評価者：実習指導者と教員の両者で実施するが、最終評価は教員が行う

3. 評価基準：評価表に基づき評価する

4. 単位認定：各実習終了後に評価し、単位認定とする

5. 単位認定の条件：単位認定は学則に基づく

成人・老年期の周手術期実習

I. 実習の目的・目標

成人・老年期の周手術期実習

実習目的	周手術期における対象の病態、治療およびそれに伴う対象とその家族の心理・社会的側面を理解し、状況の変化に応じて、回復および適応への援助ができる能力を習得する。また、クリティカルケアの場における生命維持のための看護と、対象の人権擁護家族に対する支援を考慮した看護のあり方を学ぶ。
実習目標	1.対象とその家族を包括的に理解し、援助の必要性を判断する。 2.対象とその看護に対して、状況に応じた看護を展開できる。 3.対象とその家族とのかかわりを通して、倫理的な判断や行動ができるための能力を習得する。 4.周手術期看護における看護チームの機能および他職種との連携・協働の必要性とそのあり方を学ぶ。 5.クリティカルケアの場を見学することで特殊な環境における看護のあり方を考える。

II. 実習方法

- 1.実習単位：2単位 90 時間
- 2.実習時期：2年後期
- 3.実習施設：市立秋田総合病院、秋田厚生医療センター
- 4.実習方法：10 日間を 1クールとし実施する。
 - 1)受持ちは、実習指導者・教員で選定し、学生が決定する。
 - 2)実習配置：配置表を参照
 - 3)実習記録：既定の実習記録用紙を使用
 - 4)カンファレンス
- 5.見学実習(ICU,手術室)
各見学実習においては、それぞれの健康レベルの特徴をとらえて看護の方法を理解する
- 6.その他
実習事前準備として、成人・老年期におけるあらゆる発達段階と健康問題、生活と健康問題、各健康レベルの特性と健康レベルに応じた看護、各機能障害の特性(メカニズムと役割、アセスメント、生命・生活への影響、主な症状・検査・治療、一般的な疾患)と看護を学習して実習に臨むこと

III. 実習の評価

- 1.評価対象：学習内容・学習行動・看護過程、実習記録、出席状況
- 2.評価者：実習指導者と教員の両者で行うが、最終評価は教員が行う
- 3.評価基準：評価表に基づき評価する
- 4.単位認定：実習終了後に評価し、単位認定とする
- 5.単位認定の条件：単位認定は学則に基づく

成人看護学実習

I. 実習の目的・目標

1. 成人期の健康管理実習

実習目的	地域に暮らす対象の特徴を理解する。
実習目標	1. 地域に暮らす対象の特徴を理解する。 2. 地域に暮らす人々のヘルスプロテクション・ヘルスプロモーションのあり方を理解する。

2. 成人期の慢性・終末期実習

実習目的	生涯にわたりセルフコントロールが必要な人の特徴を理解し持てる力を活かし対象とその家族へ個別性のある看護を実践する能力を養う。
実習目標	1. 生活する対象とその家族を包括的に理解し、持てる力を活かした援助の必要性を判断できる。 2. 障害をもちながらも、障害セルフコントロールにより、生活の質を高められるようなセルフケア教育・健康教育ができる。 3. 対象とその家族を支える他職種連携と、チームにおける看護師の役割を理解できる。 4. 終末期にある対象が意義深く生きられるように、また尊厳を維持した援助を理解できる。

II. 実習方法

1. 実習単位：3単位 135時間

成人期の健康管理実習 45時間

成人期の慢性・終末期実習 90時間

2. 実習時期：2年後期

3. 実習施設：市立秋田総合病院、秋田厚生医療センター、他実習要項参照

4. 実習方法

成人期の健康管理実習は5日間を1クールとし実施

成人期の慢性・終末期実習は10日間を1クールとし実施する。

- 1) 受持ちは、実習指導者・教員で選定し、学生が決定する。
- 2) 実習配置：配置表を参照
- 3) 実習記録：既定の実習記録用紙を使用
- 4) カンファレンス

5. 見学実習

見学実習においては、対象の健康レベルの特徴をとらえて看護の方法を理解する

6. その他

実習事前準備として、成人期におけるあらゆる発達段階と健康問題、生活と健康問題、各健康レベルの特性と健康レベルに応じた看護、各機能障害の特性(メカニズムと役割、アセスメント、生命・生活への影響、主な症状・検査・治療、一般的な疾患)と看護を学習して実習に臨むこと

III. 実習の評価

1. 評価対象：学習内容・学習行動・看護過程、実習記録、出席状況
2. 評価者：実習指導者と教員の両者で行うが、最終評価は教員が行う
3. 評価基準：評価表に基づき評価する
4. 単位認定：各実習終了後に評価し、単位認定とする
5. 単位認定の条件：単位認定は学則に基づく

老年看護学実習

I. 実習の目的・目標

実習目的	加齢と健康障害にある高齢者の特徴を理解し、対象に必要な看護を実践する能力を養う。
実習目標	1. 老年期の特徴と健康障害の関連が理解できる。 2. 高齢者の個別性を尊重した看護展開ができる。 3. 高齢者の社会資源の活用方法が理解できる。 4. 高齢者と高齢者を支援する人々の関わりを通して、自己の老年観を深めることができる。

II. 実習方法

1. 実習単位：2 単位 90 時間
2. 実習時期：3 年前期
3. 実習施設：市立秋田総合病院・秋田厚生医療センター
4. 実習方法：老年看護学実習 10 日間 1 クールとし実施する
 - 1) 受け持ちは、実習指導員・教員で選定し、学生が決定する
 - 2) 実習配置：配置表を参照
 - 3) 実習記録：既定の実習記録用紙を使用
 - 4) カンファレンス
5. その他
事前学習として老年期における発達段階と健康問題、加齢と老化、一般的な疾患を学習し実習に臨むこと

III. 実習の評価

1. 評価対象：学習内容・学習行動・看護過程、実習記録、出席状況
2. 評価者：実習指導者と教員の両方で行うが、最終評価は教員が行う
3. 評価基準：評価表に基づき評価する
4. 単位認定：老年看護学実習終了後に評価し、単位認定とする
5. 単位認定：単位認定は学則に基づく

小児看護学実習

I. 実習の目的・目標

1. 小児看護学実習

実習目的	小児、家族および取り巻く人々を総合的にとらえ、これまで学んだ知識・技術・態度を統合し看護を必要としている人々に看護実践できる能力を養う
実習目標	1. 健康な小児の成長発達の特徴と必要な支援について理解できる 2. 小児各期の成長・発達段階に応じた接し方ができる 3. 健康の保持増進・疾病予防のための援助ができる 4. 患児の成長・発達段階、健康レベルにあわせた看護計画を立案することができる 5. 健康障害が小児と家族および取り巻く人々に及ぼす影響を理解することができる 6. 医療チームの一員としての役割が理解できる

II. 実習方法

1. 実習単位 : 2 単位 90 時間
2. 実習時期 : 3 年前期
3. 実習施設 : 市立秋田総合病院、秋田厚生医療センター、市内の保育所
4. 実習方法
 - 1) 病棟実習では、小児 1 名を受け持ち、看護計画を立案、実施、評価する
 - 2) 外来実習では、一般外来や乳児健診、予防接種を見学し、必要な看護技術を実践する
 - 3) 実習配置 : 配置表を参照
 - 4) 実習記録 : 既定の実習記録用紙を使用
5. 学内演習 : 乳児健診時の身体計測と予防接種に必要な看護技術を実践する
6. その他 : 事前学習として以下の項目を学習して臨むこと
 - 1) 各期の子どもの特徴・成長・発達と日常生活援助
 - 2) 病期における子どもと家族のアセスメントの特徴
 - 3) 健康障害をもつ子どもと家族への看護
 - 4) 子どものフィジカルアセスメント(バイタルサイン測定、身体計測、診察時の介助)
 - 5) 小児の疾患と看護
 - 6) 検査と看護
 - 7) 治療と看護 : 吸入療法、酸素療法、食事療法、輸液療法

III. 実習の評価

1. 評価対象 : 学習内容・学習行動、実習記録、出席状況
2. 評価者 : 病棟実習指導者と実習指導担当教員の両者で行うが、最終評価は教員が行う
3. 評価基準 : 評価表に基づき評価する
4. 単位認定 : 実習終了後に評価し、単位認定とする
5. 単位認定の条件 : 単位認定は学則に基づく

母性看護学実習

I. 実習の目的・目標

1. 母性看護学実習

実習目的	妊娠、分娩、産褥における母性の特徴を理解し、妊産褥婦及び新生児に必要な看護と、保健指導が行える基礎能力を養う。
実習目標	1.産褥期の身体的・精神的・社会的変化と健康状態および新生児の正常な経過について説明できる。 2.康な対象であることをふまえ、褥婦および新生児の経過に応じ、個別に合わせた看護援助を計画、実践できる。 3.母子を取り巻く環境と社会資源および継続看護の必要性について考察できる。 4.母子を支える医療チームの一員としての役割と多職種連携について説明できる。 5.誕生への関わりと看護実践を通して自己の母性観、父性観を明らかにできる。 6.看護学生として主体的に取り組み、対象を尊重する姿勢をもち、看護師としての基本的態度を養う。

II. 実習方法

1.実習単位:2単位90時間

2 実習時期:3年前期

3.実習施設:秋田厚生医療センター、市立秋田総合病院、産前産後ケアハウス助産院ばーす、並木クリニック

4.実習方法

- 1)病棟実習では産婦、褥婦、新生児の一組を受け持ち、看護計画を立案、実施、評価する。
- 2)外来実習(産前産後ケアハウス助産院ばーす、並木クリニック)では妊婦健診、母乳外来や母親学級その他の見学をおこない、地域母子保健について学習する。
- 3)実習配置:配置表を参照
- 4)実習記録:既定の実習記録用紙を使用
実習記録1号紙
実習記録2号紙
- 5.学内演習:DVD 視聴の他、ペーパーペイシエントを用いた事例検討、分娩監視装置の判読の基本、シミュレーターを用いた妊婦の健康診査、産褥期の観察、新生児の計測などを学習する。
- 6.その他:事前学習として以下の項目について学習しておくこと。
 - 1)産褥期および新生児の正常な経過。褥婦は全身状態、退行性変化、進行性変化についてすべて根拠をもって観察できるよう学習する。進行性変化においてはポジショニング・ラッチオンの観察が必須であるため、観察項目を整理しておくことよい。
 - 2)産褥期、新生児期に起こりやすい異常およびその予防と看護。
 - 3)妊娠期の生理的変化、マイナートラブルとその看護および保健指導、妊婦健康診査、胎児の成長発達。
 - 4)分娩の経過と産婦への看護
 - 5)母性看護技術(新生児の計測、抱っこ、沐浴、レオポルド触診法)※練習していない場合は実践不可。
 - 6)沐浴指導の原稿を作成し、実習初日に提出すること。

III. 実習の評価

- 1.評価対象:学習内容・学習行動、実習記録、出席状況
- 2.評価者:病棟実習指導者と実習指導担当教員の両者で行うが、最終評価は教員が行う
- 3.評価基準:評価表に基づき評価する
- 4.単位認定:実習終了後に評価し、単位認定とする
- 5.単位認定の条件:単位認定は学則に基づく

精神看護学実習

I. 実習の目的・目標

1. 精神看護学実習

実習目的	精神に障害をもつ人を総合的に理解し、対象者とのかかわりを通して看護者の役割を学ぶ。
実習目標	1. 精神に障害をもつ人の治療的環境及び生活環境としての病棟の構造と特徴について理解できる。 2. 精神に障害をもつ人の特性を理解できる。 3. 精神に障害をもつ人の生活技能獲得への援助ができる。 4. 精神に障害をもつ人との関係を築き、発展させていくことができる。 5. 対象者とのかかわりを通して、自己の傾向に気づき、自己洞察できる。 6. 薬物療法、その他の療法について理解できる。 7. 精神に障害をもつ人が、地域で生活していくために必要な援助とそれを支える支援システムについて理解できる。

II. 実習方法

1. 実習単位：2 単位 90 時間
2. 実習時期：3 年前期
3. 実習施設：市立秋田総合病院、秋田緑ヶ丘病院及び関連施設
4. 実習方法

以下の患者を 1 例受け持ち看護展開する

- 1) 市立秋田総合病院：精神症状が比較的捉えやすく、日常生活に影響している患者とする
- 2) 秋田緑ヶ丘病院：レクリエーション・作業療法に参加している慢性期にある患者とする
- 3) 実習配置：配置表を参照
- 4) 実習記録：既定の実習記録用紙を使用

III. 実習の評価

1. 評価対象：実習要項に沿って評価する
2. 評価者：実習指導者と教員で行う、最終評価は教員が行う
3. 評価基準：評価基準に基づき評価する
4. 単位認定：精神看護学実習終了後に評価し単位認定とする

看護の統合と実践

I. 実習の目的・目標

1. 看護の統合と実践

実習目的	看護チームの一員として看護管理の視点を持ち、複数患者の受け持ち・多重課題を通して、看護の既習知識・技術・態度を統合した専門職として必要な看護実践能力を高める。
実習目標	1. チームメンバーと情報を共有しながら複数の受け持ち患者を理解し、看護計画を立案できる。 2. 複数患者の健康状態に合わせた看護援助を優先順位や時間管理を踏まえ、チームで協力しながら安全に実施できる。 3. 夜間帯の実習を通して、看護の継続性を理解できる。 4. 病院組織における看護管理、医療安全の実際を理解できる。 5. 療養者が安心して地域で生活するための病院の取り組みを理解できる。 6. 医療チームの一員としての役割と連携を理解し自己の課題を明確にできる。

II. 実習方法

1. 実習単位：実習時間：2 単位 90 時間。
2. 実習時期：3 年後期
3. 実習施設：市立秋田総合病院 秋田厚生医療センター。
4. 実習配置：配置表を参照。
5. 受け持ちケースについて：複数の患者を同時に受け持ち、看護実践する。
 - 1) 学生チームで患者を受け持つので、患者人数は学生 1 人当たり 1 人とする。
 - 2) 重症患者、医療（人工呼吸器装着など）、看護必要度（全介助）の高い患者は避ける。
 - 3) 援助の実施を中心に考えるのではなく、観察・行動の優先順位について考えられる患者が望ましい。
6. 事前学習および準備：以下の項目について事前学習および準備を行う。
 - 1) 看護管理。
 - 2) 地域医療連携。
 - 3) 最終実習に向けて自己の実習体験を振り返り、実習目標を明らかにする。
 - 4) 卒業までに到達したい看護技術について、十分経験できるよう実習計画を立てる。
 - 5) 実習病棟の特徴的疾患と看護。
7. 実習記録：既定の実習記録用紙を使用。

III. 実習の評価

1. 評価対象：学習内容・学習行動・看護過程、実習記録、出席状況。
2. 評価者：実習指導者と教員の両者で行うが、最終評価は教員が行う。
3. 評価基準：評価表に基づき評価する。
4. 単位認定：既習全ての臨地実習終了後に評価し、単位認定とする。
5. 単位認定の条件：単位認定は学則に基づく。

